



独立行政法人国立高等専門学校機構

久留米工業高等専門学校

令和7年度

学校要覧

目次

◆ 校長挨拶……………	P1	◆ 総合情報センター……………	P30
◆ 校章・ロゴマーク・校歌……………	P2	◆ 産学民連携テクノセンター……………	P31
◆ 沿革……………	P3	◆ キャリア支援室……………	P31
◆ 教育理念、教育目的・目標（本科）…	P4	◆ 学生寮……………	P32
◆ 各学科・専攻科の3つの方針……………	P5	◆ 学生会……………	P33
◆ 主な行事……………	P10	◆ 入学・在学状況……………	P34
◆ 組織……………	P11	◆ 卒業・修了状況……………	P35
◆ 一般科目……………	P13	◆ 研究活動……………	P36
◆ 学科		◆ 社会貢献……………	P37
機械工学科……………	P15	◆ 課外活動の主な実績……………	P37
電気電子工学科……………	P17	◆ 国際交流……………	P38
制御情報工学科……………	P19	◆ 大学等間交流協定……………	P39
生物応用化学科……………	P21	◆ 財務状況……………	P40
材料システム工学科……………	P23	◆ 施設状況……………	P41
◆ 専攻科……………	P25	◆ アクセス……………	P43
◆ 図書館……………	P29		
◆ 学生相談室・保健室……………	P30		
◆ ものづくり教育センター……………	P30		



筑後川(手前)の畔に位置するキャンパス全景

校長挨拶

独立行政法人国立高等専門学校機構
久留米工業高等専門学校

校長 南 新 平



久留米工業高等専門学校は、実り豊かな筑後平野を悠々と流れる筑後川と宝満川が合流するほとりに位置しています。ここ小森野の地には、今から 80 年以上前に、我が国の発展を担う技術者の育成を目的にした旧制久留米高等工業学校が建てられました。その後時代と共に変遷をたどり、1964 年に、中学校卒業後の 5 年間で実践的・創造的技術者を養成する高等教育機関として制定された高等専門学校の第 3 期校として、本校は設立されて現在に至っています。1966 年 3 月に全国の高専で初めて卒業生を輩出して以来、本校の卒業生は 1 万余名に及び、国内外において優れた創造的なエンジニア、研究者や社会人として各方面で活躍しています。

本冊子は、本校の教育や研究の方針や内容とともに、学生生活や社会との結びつきの状況など、本校が進めている様々な活動を広く一般の方々にご紹介することを目的としています。

本校は、ここに記述していますように、5 年課程の本科に、機械工学、電気電子工学、制御情報工学、生物応用化学、材料システム工学の 5 学科を配しており、ここでは大学受験で中断されることなく、一貫した専門教育とともに人格形成に資する教養教育を行なっています。その後に続く 2 年の専攻科では、機械・電気システム工学と物質工学の 2 専攻に分かれてさらに深く専門性を磨き、修了後には大学卒業と同様の学士の称号を得ることができます。また専攻科では、九州大学工学部と連携した教育プログラムコースが開設され、このコースを修了した者は、専攻科の修了証書とともに九州大学工学部卒業証書（学士の学位記）も与えられます。

本校は「自立の精神と創造性に富み、広い視野と豊かな心を兼ね備えた、社会に貢献できる技術者の育成」を

教育理念として掲げて、将来に夢を託すことができる優れた人材の育成に教職員をあげて取り組んでいます。本科生の約 5 割は卒業後に就職して社会で活躍をし始めます。本校卒業生には社会の各方面から有能な人材として非常に高い期待が寄せられており、有難いことに就職志望者数の約 40 倍にも達する求人が各界から毎年寄せられています。残りの約 5 割は本校専攻科あるいは九州大学や九州工業大学等の大学 3 年生に進学して、さらに研鑽を積んでそれぞれの道を歩んでいきます。本校専攻科卒業生への求人倍率も例年 100 倍以上と極めて高く、本校の教育理念は十分に実現できているものと確信いたします。

高等専門学校は高等教育機関として、産業界や地域社会との連携・協働を密にして、そこで生じている様々な課題の科学的な解決に取り組み、それらを通して人材教育の高度化を図ることも使命としています。そのために本校は、久留米市内の大学等の 5 つの高等教育機関からなる「高等教育コンソーシアム久留米」や近隣の技術系企業、研究機関などが参加している「テクノネット久留米」などの連携事業に積極的に関わって、主要な役割を果たすとともに、久留米商工会議所、日本歯車工業会、日本ゴム協会九州支部や、九州大学・工学系部局、久留米工業大学などとも個別に協定を締結して、社会から寄せられるご期待に積極的に応えています。

是非とも久留米工業高等専門学校の活動や動向にご注目とご関心を寄せていただき、一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

校章・ロゴマーク・校歌

1. 校章



久留米市は、つつじの名所として広く知られており、本校は、春ともなればつつじの花が色彩豊かに校庭いっぱいに咲き競い、咲き乱れます。

校章はそのつつじの葉を形どったものであり、また葉脈は、学校のすぐ横を流れる九州一の大河である筑後川の流れを表象したもので、たゆまなく流れる川の流れは、たゆまなく学びの道に進みゆく姿を表したものです。

2. ロゴマーク



ロゴマークは、各学科のシンボルカラーを用いて、本校の教育理念を表象したもので、青色と空色の「人」が「自立の精神」、赤色と紫色の「羽」が「広い視野」、黄色の「円」が「豊かな心」、全体からイメージできる Kurume の「K」が「創造性」を表しています。

また、先端をそれぞれ中心に向けることで「協調性」を表し、立体文字と斜体文字を併用して「多様性」を表しています。変数を意味する斜体文字は、社会環境の変化に合わせて変わっていく「適応性」も意味しています。

3. 校歌

1. 筑紫なる 清き山水 あつめきて 流れ流るる 筑後川
ひる夜となく 流れ流るる
我らも進まん学びの道を 学びの道を !!
2. 春くれば つつじの花は 日に映えて 我が校庭に
咲き競う いのちの限り 咲き競う
我らも咲かさん技術の花を 技術の花を !!
3. 紺碧の 空に聳ゆる 耳納山 永遠にゆるがで 世を護る
雨降る日にも 嵐の夜も
我らも築かんゆるがぬものを ゆるがぬものを !!

沿革

久留米工業高等専門学校は、昭和14年に官立の実業専門学校である久留米高等工業学校が開設されたことに起源を発します。同校は、高等教育改革の一環として昭和19年に久留米工業専門学校へ改称し、戦後の学制改革において昭和24年に九州大学へ包括されて九州大学久留米工業専門学校となった後、最後の卒業生を送り出した昭和26年に閉校となりました。

その後、昭和33年に久留米工業短期大学が、そして昭和36年に久留米工業短期大学附属工業高等学校が各々設立され、ここに5年制の高等工業教育のモデルケースが全国で初めて誕生しました。

そして、昭和39年に久留米工業短期大学及び同附属工業高等学校から移行する形で現在の久留米工業高等専門学校が設立されました。これに伴い、久留米工業短期大学附属工業高等学校は廃止され、その在校生は久留米工業高等専門学校へ編入されましたが、その結果、昭和41年に全国で初めて高等専門学校の卒業生を輩出するに至っています。

また、平成5年には九州の高等専門学校で最初に専攻科を設置しました。

年表

久留米高等工業学校・
久留米工業専門学校

昭和14年	5月	久留米高等工業学校設立 (機械科、精密機械科、工作機械科、 鋳山機械科、採鋳科) 初代校長 小林 俊次郎 就任 第1回入学式挙行
昭和16年	12月	第1回卒業式挙行
昭和17年	4月	化学工業科設置
昭和19年	4月	久留米工業専門学校に改称
昭和20年	11月	二代校長 大脇 策市 就任
昭和21年	4月	ゴム工業科設置
昭和24年	5月	九州大学に包括され、九州大学久留 米工業専門学校となる
昭和26年	3月	第10回卒業式挙行 九州大学久留米工業専門学校廃止 卒業生総数 2,654 名



久留米工業短期大学

昭和33年	4月	久留米工業短期大学設立 (機械科、工業化学科) 初代学長 九州大学学長 山田 穰 (併任)
	6月	二代学長 九州大学学長 教授 葛西 泰二郎 (併任) 第1回入学式挙行
昭和35年	3月	第1回卒業式挙行
	4月	電気科設置
昭和36年	4月	久留米工業短期大学附属工業高等学 校設立 (機械科、電気科、工業化学科) 同校初代校長 九州大学 教授 葛西 泰二郎 (併任) 同校第1回入学式挙行
	5月	三代学長 和栗 明 就任 (附属工 業高等学校長を併任)
昭和37年	4月	短期大学、附属工業高等学校に金属 学科設置、機械科1学級増設
昭和39年	3月	附属工業高等学校廃止 (在校生は同 年4月設立の久留米工業高等専門学 校に編入学)
昭和41年	3月	第7回卒業式挙行 久留米工業短期大学廃止 卒業生総数 752 名



久留米工業高等専門学校

昭和39年	4月	久留米工業高等専門学校設立 (機械 工学科2学級、電気工学科、工業化 学科、金属工学科) 初代校長 和栗 明 就任 第1回入学式、編入学式挙行
昭和41年	3月	第1回卒業式挙行
昭和49年	10月	創立10周年記念式典挙行
昭和51年	7月	二代校長 園田 正明 就任
昭和59年	4月	三代校長 西川 兼康 就任
	10月	創立20周年記念式典挙行
昭和62年	4月	金属工学科を材料工学科へ改組
平成元年	4月	四代校長 長谷川 修 就任
平成3年	4月	機械工学科2学級のうち1学級を制 御情報工学科へ改組
平成5年	4月	専攻科設置 専攻科第1回入学式挙行
平成6年	4月	五代校長 谷口 宏 就任
	10月	創立30周年記念式典挙行
平成7年	3月	専攻科第1回修了式挙行
平成8年	4月	工業化学科を生物応用化学科へ改組
平成11年	4月	六代校長 柳 謙一 就任
平成13年	4月	電気工学科を電気電子工学科へ 名称変更
平成16年	4月	独立行政法人国立高等専門学校機構 設置
平成17年	4月	七代校長 前田 三男 就任
平成22年	4月	八代校長 上田 孝 就任
平成26年	11月	創基75周年・高専創立50周年記 念式典挙行
平成27年	4月	九代校長 三川 譲二 就任
平成29年	4月	材料工学科を材料システム工学科に 名称変更
令和2年	4月	十代校長 本庄 春雄 就任
令和4年	4月	十一代校長 松村 晶 就任
令和7年	4月	十二代校長 南 新平 就任

教育理念

自立の精神と創造性に富み、
広い視野と豊かな心を兼ね備えた、
社会に貢献できる技術者の育成



教育目的・目標（本科）

◆ 教育目的

次のような実践的、創造的技術者を育成する。

- 1 自立の精神と創造性に富んだ技術者
- 2 広い視野と豊かな心を兼ね備えた技術者
- 3 社会に貢献できる技術者

◆ 教育目標

- 1 広い視野と豊かな心の涵養
- 2 数学、自然科学、情報処理に関する基礎能力の育成
- 3 専門に関する基礎知識と技術の修得
- 4 問題を分析し、解決する能力の育成
- 5 自ら学び、工夫する能力の育成
- 6 コミュニケーション能力の育成

各学科及び専攻科の3つの方針

本校は各学科及び専攻科においてディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）、アドミッションポリシー（入学受入れの方針）の三つの方針を掲げています。

◆ 機械工学科

ディプロマポリシー

機械工学科は、ものづくりの精神を基本とし、機械技術者としての基礎能力や専門技術を修得するとともに広い視野と豊かな心を備えて、社会に貢献できる自立の精神に富んだ実践的、創造的機械技術者を育成することを目指しています。そのため以下のような能力を身につけ所定の単位を修得した学生に卒業を認定します。

- 1 機械工業に必要な、材料強度、機械力学、設計製図、生産加工、制御情報、熱、流体および機械工学に関連した周辺技術に関する基礎的な知識と技術を修得し、課題を解決するために活用できる。
- 2 自ら学び工夫するとともに、他者と協力して課題の解決に積極的に行動できる。
- 3 環境に配慮しながら技術者倫理に沿って自律的に判断し、行動できる。
- 4 広い視野と豊かな心を備えて社会に貢献できる。

カリキュラム・ポリシー

機械工学科は、学生がディプロマポリシーに掲げた各能力を身につけられるよう、以下のように教育課程を編成します。

- 1 機械工業に必要な、材料強度、機械力学、設計製図、生産加工、制御情報、熱、流体および機械工学に関連した周辺技術に関する基礎的な知識と技術を修得し、課題を解決できるように
 - (1) 低学年次に数学、化学、物理を、高学年次に応用数学、応用物理科目を設け、講義を主として実施して各専門分野を学ぶ基礎を身につける。
 - (2) 高学年次に機械系4力学（材料力学、機械力学、流体力学、熱力学）科目を設け、講義を主として実施し、さらにこれらに関する演習科目を設け実施する。
 - (3) 全ての学年に製図科目を設け、講義・実習を主として実施する。また、高学年次には設計工学、機構学科目を設け、また製図科目は設計的要素を帯び、講義・実習・実験を主として実施する。
 - (4) 低学年次に加工実習科目を設け、実習を主として実施する。また高学年次に加工学、品質管理科目を設け、講義を主として実施する。
 - (5) 低学年次に情報処理科目を設け、講義と実習を主として実施する。また高学年次に制御工学科目を設け、講義を主として実施する。
 - (6) 中高学年次に専門系英語科目、材料工学科目、化学工学科目、電気電子工学科目を設け、講義を主として実施する。
 - (7) 高学年次に卒業研究を設け、実験を主として実施する。
- 2 自ら学び工夫するとともに、他者と協力して課題の解決に積極的に行動できるように
 - (1) 低学年次に専門導入科目、高学年にセミナー科目を設け、講義を主として実施する。
 - (2) 低学年次に加工実習科目を設け、実習を主として実施する。
 - (3) 中高学年次に化学、物理、機械工学の実験科目を設け、実験を主として実施する。
 - (4) 高学年次にインターンシップ、卒業研究を設け、実習および実験を主として実施する。
- 3 環境に配慮しながら技術者倫理に沿って自律的に判断し、行動できるように
 - (1) 低学年次に加工実習科目を設け、実習を主として実施する。
 - (2) 中高学年次に化学、物理、機械工学の実験科目を設け、実験を主として実施する。
 - (3) 高学年次に安全工学、工業倫理、品質管理科目を設け、講義を主として実施する。
- 4 広い視野と豊かな心を備えて社会に貢献できるように
 - (1) 低学年次に国語、社会、生物、地学、芸術科目を設け、講義を主として実施する。高学年次にリベラルアーツ科目を設け、講義・演習を主として実施する。
 - (2) 低中学年次に基礎力を養成する英語科目、高学年次に第二外国語科目、専門系英語科目を設け、講義・演習を主として実施する。
 - (3) 全ての学年に保健体育科目を設け、講義・実習を主として実施する。

以上の教育課程において、到達目標に対する到達度を

- (1) 講義科目においては、定期試験・演習・レポートなど
- (2) 卒業研究においては、卒業論文、研究発表、課題への取組状況など
- (3) その他の科目においては、課題への取組状況、レポート、発表などにより各科目のシラバスに記載されている方法で評価します。

成績は100点法によるものとし、60点以上を合格として単位を認定します。成績評価の評語は次の基準によるものとします。

評価 点数 S 90点以上 A 89点以下80点以上 B 79点以下70点以上 C 69点以下60点以上 D 59点以下

アドミッションポリシー

「求める学生像」

機械工学科は、ものづくりの精神を基本とし、機械技術者としての基礎能力や専門技術を修得するとともに広い視野と豊かな心を備えて、社会に貢献できる自立の精神に富んだ実践的、創造的機械技術者を育成することを目指しています。

そのため次のような入学者を求めています。

- 1 機械技術者になる意欲を持っている人
- 2 理数系の基礎学力が身に付いている人
- 3 自立心があり、社会的ルールを守って行動できる人
- 4 他の人と対話を通して相互理解を深めようとする人

「入学選抜の基本方針」

第一学年への入学者の選抜は、推薦による選抜及び学力検査による選抜により行う。

◇推薦による選抜

調査書、推薦書、推薦選抜志願調書、適正検査（数学）の成績及び面接の評価を総合して行う。

◇学力検査による選抜

調査書及び学力検査（理科、英語、数学、国語及び社会）の成績を総合して行う。第三学年への外国人留学生の編入学生の選抜は、高専機構が実施する選抜試験により行う。

◇高専機構による選抜

出願書類、日本留学試験の成績、TOEFL、TOEIC又はIELTSの成績及び面接の評価を総合して行う。第四学年への編入学生の選抜は学力検査による選抜により行う。

◇学力検査による選抜

調査書及び学力検査（数学、英語及び理科）の成績を総合して行う。

◆ 電気電子工学科

ディプロマポリシー

電気電子工学科は、先端技術であるエレクトロニクスと ICT、およびこれらを支える電気エネルギーの専門知識を修得するとともに広い視野と豊かな心を備えて、高度情報通信社会に貢献できる自立の精神に富んだ実践的、創造的電気電子技術者を育成することを目指しています。そのため以下のような能力を身につけ所定の単位を修得した学生に卒業を認定します。

- 1 電気電子工学に必要な、エレクトロニクス、情報通信技術 (ICT)、電気エネルギー、パワーエレクトロニクス、および電気電子工学に関連した周辺技術に関する基礎的な知識と技術を修得し、課題を解決するために活用できる。
- 2 自ら学び工夫するとともに、他者と協力して課題の解決に積極的に行動できる。
- 3 環境に配慮しながら技術者倫理に沿って自律的に判断し、行動できる。
- 4 広い視野と豊かな心を備えて社会に貢献できる。

カリキュラム・ポリシー

電気電子工学科は、先端技術であるエレクトロニクスと ICT、およびこれらを支える電気エネルギーの専門知識を修得し、広い視野と豊かな心を備えて、高度情報通信社会に貢献できる自立の精神に富んだ実践的、創造的電気電子技術者を育成することを目指しています。そのため以下のように教育課程を編成します。

- 1 電気電子工学に必要な、エレクトロニクス、情報通信技術 (ICT)、電気エネルギー、パワーエレクトロニクス、および電気電子工学に関連した周辺技術に関する基礎的な知識と技術を修得し、それらを課題解決に活用できるために、次の (1) ~ (8) を実施します。
 - (1) 自然科学科目を設け、講義や実験を実施します。
 - (2) 低学年に専門導入科目を設け、講義、演習および実習を実施します。
 - (3) 専門基礎科目を設け、講義や演習を実施します。
 - (4) エレクトロニクスに関する専門科目を設け、講義、演習および実験を実施します。
 - (5) 情報通信技術 (ICT) に関する専門科目を設け、講義や演習を実施します。
 - (6) 電気エネルギー、パワーエレクトロニクスに関する専門科目を設け、講義、演習、実験を実施します。
 - (7) 電気電子工学に関連した周辺技術に関する専門科目を設け、講義を実施します。
 - (8) 専門技術の活用に関する専門科目を設け、講義や演習を実施します。
- 2 自ら学び工夫するとともに、他者と協力して課題の解決に積極的に行動できるために、次の (1) ~ (2) を実施します。
 - (1) 全学年で実験、実習科目を設け、実施します。
 - (2) インターンシップや卒業研究を設け、実施します。
- 3 環境に配慮しながら技術者倫理に沿って自律的に判断し、行動できるために、次の (1) ~ (3) を実施します。
 - (1) リテラシー科目を設け、講義や演習を実施します。
 - (2) 倫理、安全、法律に関する科目を設け、講義を実施します。
 - (3) インターンシップや卒業研究を設け、実施します。
- 4 広い視野と豊かな心を備えて社会に貢献できるために、次の (1) ~ (4) を実施します。
 - (1) 人文社会科学科目、リベラルアーツ科目を設け、講義や演習を実施します。
 - (2) 外国語科目を設け、講義や演習を実施します。
 - (3) 保健体育科目を設け、実施します。
 - (4) インターンシップや卒業研究を設け、実施します。

以上の教育課程において、到達目標に対する到達度を

- (1) 講義科目においては、定期試験・演習・レポートなど
- (2) 卒業研究においては、卒業論文、研究発表、課題への取り組み状況など
- (3) その他の科目においては、課題への取り組み状況、レポート、発表などにより各科目のシラバスに記載されている方法で評価します。

成績は 100 点法によるものとし、60 点以上を合格として単位を認定します。成績評価の評語は次の基準によるものとします。

評価 点数

S 90 点以上 A 89 点以下 80 点以上 B 79 点以下 70 点以上 C 69 点以下 60 点以上 D 59 点以下

アドミッションポリシー

「求める学生像」

電気電子工学科は、先端技術であるエレクトロニクスと ICT、およびこれらを支える電気エネルギーの専門知識を修得するとともに広い視野と豊かな心を備えて、高度情報通信社会に貢献できる自立の精神に富んだ実践的、創造的電気電子技術者を育成することを目指しています。そのため次のような入学者を求めています。

- 1 電気電子技術者になる意欲を持っている人
- 2 理数系の基礎学力が身に付いている人
- 3 自立心があり、社会的ルールを守って行動できる人
- 4 他の人と対話を通して相互理解を深めようとする人

「入学者選抜の基本方針」

第一学年への入学者の選抜は、推薦による選抜及び学力検査による選抜により行う。

◇推薦による選抜

調査書、推薦書、推薦選抜志願調書、適正検査（数学）の成績及び面接の評価を総合して行う。

◇学力検査による選抜

調査書及び学力検査（理科、英語、数学、国語及び社会）の成績を総合して行う。第三学年への外国人留学生の編入学生の選抜は、高専機構が実施する選抜試験により行う。

◇高専機構による選抜

出願書類、日本留学試験の成績、TOEFL、TOEIC 又は IELTS の成績及び面接の評価を総合して行う。第四学年への編入学生の選抜は学力検査による選抜により行う。

◇学力検査による選抜

調査書及び学力検査（数学、英語及び理科）の成績を総合して行う。

◆ 制御情報工学科

ディプロマポリシー

制御情報工学科は、制御、情報を中心とした幅広い専門知識を修得するとともに広い視野と豊かな心を備えて、社会のさまざまな産業分野において活躍できる自立の精神に富んだ実践的、創造的制御情報技術者を育成します。そのため以下のような能力を身につけ所定の単位を修得した学生に卒業を認定します。

- 1 制御情報分野に必要な、情報工学、通信ネットワーク、メカトロニクス、コンピュータ制御、および制御情報工学に関連した周辺技術に関する基礎的な知識と技術を修得し、課題を解決するために活用できる。
- 2 自ら学び工夫するとともに、他者と協力して課題の解決に積極的に行動できる。
- 3 環境に配慮しながら技術者倫理に沿って自律的に判断し、行動できる。
- 4 広い視野と豊かな心を備えて社会に貢献できる。

カリキュラム・ポリシー

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）を実現するため、以下のように教育課程を編成します。

- 1 基礎的な知識と技術を修得し、課題を解決するために、情報工学および通信ネットワークの分野として、情報理論、プログラミング、データ構造とアルゴリズム、計算機アーキテクチャ、計算機ネットワーク等の科目を配置し、メカトロニクスおよびコンピュータ制御、制御工学の分野として、電磁気学、電子回路、計測工学、制御工学等の科目を配置します。
- 2 自ら学び工夫するとともに、他者と協力して課題の解決にあたる、創造プログラミング演習、電子情報実験等の実験科目を配置します。
- 3 環境に配慮しながら技術者倫理に沿って自律的に判断できるように、情報処理基礎、工業倫理と安全等の科目を配置します。
- 4 広い視野と豊かな心を備えて社会に貢献できるよう、国語、社会、数学、物理、化学、英語、第二外国語、体育、芸術等の科目を配置します。

以上の教育課程において、到達目標に対する到達度を

- (1) 講義科目においては、定期試験・演習・レポートなど
- (2) 卒業研究においては、卒業論文、研究発表、課題への取り組み状況など
- (3) その他の科目においては、課題への取り組み状況、レポート、発表などにより各科目のシラバスに記載されている方法で評価します。

成績は 100 点法によるものとし、60 点以上を合格として単位を認定します。成績評価の評語は次の基準によるものとします。

評価 点数

S 90 点以上 A 89 点以下 80 点以上 B 79 点以下 70 点以上 C 69 点以下 60 点以上 D 59 点以下

アドミッションポリシー

「求める学生像」

制御情報工学科は、制御、情報を中心とした幅広い専門知識を修得するとともに広い視野と豊かな心を備えて、社会のさまざまな産業分野において活躍できる自立の精神に富んだ実践的、創造的制御情報技術者を育成することを目指しています。そのため次のような入学者を求めています。

- 1 制御情報技術者になる意欲を持っている人
- 2 理数系の基礎学力が身に付いている人
- 3 自立心があり、社会的ルールを守って行動できる人
- 4 他の人と対話を通して相互理解を深めようとする人

「入学者選抜の基本方針」

第一学年への入学者の選抜は、推薦による選抜及び学力検査による選抜により行う。

◇推薦による選抜

調査書、推薦書、推薦選抜志願調書、適正検査（数学）の成績及び面接の評価を総合して行う。

◇学力検査による選抜

調査書及び学力検査（理科、英語、数学、国語及び社会）の成績を総合して行う。第三学年への外国人留学生の編入学者の選抜は、高専機構が実施する選抜試験により行う。

◇高専機構による選抜

出願書類、日本留学試験の成績、TOEFL、TOEIC 又は IELTS の成績及び面接の評価を総合して行う。第四学年への編入学者の選抜は学力検査による選抜により行う。

◇学力検査による選抜

調査書及び学力検査（数学、英語及び理科）の成績を総合して行う。

◆ 生物応用化学科

ディプロマポリシー

生物応用化学科は、応用化学コースと生物化学コースを設けて、化学工業、バイオ工業に必要な基礎・専門知識および技術者素養を修得、複合化して使いこなすとともに、広い視野と豊かな心を備えて、社会に貢献できる、自立の精神に富んだ実践的、創造的技術者（生物化学または応用化学）を育成することを目指しています。そのため以下のような能力を身につけ所定の単位を修得した学生に卒業を認定します。

- 1 両コース共通に、化学・生物の基礎、化学工学、環境工学、情報リテラシー、技術者素養、応用化学コースでは化学工業に必要な、有機化学、高分子化学、ポリマー工学、機能性有機材料および応用化学に関連した周辺技術、生物化学コースではバイオ工業に必要な、生物有機化学、バイオプロセス工学、遺伝子細胞工学および生物化学に関連した周辺技術に関する基礎的な知識と実験技術を修得し、課題を解決するために活用できる。
- 2 自ら学び工夫するとともに、他者と協力して課題の解決に積極的に行動できる。
- 3 環境に配慮しながら技術者倫理に沿って自律的に判断し、行動できる。
- 4 広い視野と豊かな心を備えて社会に貢献できる。

カリキュラム・ポリシー

生物応用化学科は、応用化学コースと生物化学コースを設けて、化学工業、バイオ工業に必要な基礎・専門知識および技術者素養を修得、複合化して使いこなすとともに、広い視野と豊かな心を備えて、社会に貢献できる、自立の精神に富んだ実践的、創造的技術者を育成することを目指しています。そのため以下のように教育課程を編成します。

- 1 基礎的および専門的知識と実験技術を修得し、課題解決に活用できるように、低学年では、数学、物理、化学、情報などの工学の基礎科目、コミュニケーション能力の基礎となる国語、英語、および一般教養の基礎となる社会科目を多く配置します。高学年に進むに従い、応用化学と生物化学に関する専門科目が多くなるくさび形の授業科目を編成します。
- 2 自学し工夫する能力、および他者との協調性を持って課題に取り組めるように、低学年より 実験・実習を設定して技術の実際に触れることで技術への理解を促すとともに、高学年ではインターンシップや卒業研究によりエンジニアリング・スピリットを体得した専門技術者としての能力を養成します。
- 3 環境に配慮しながら技術者倫理に沿って自律的に判断し、行動できるように、化学工業やバイオ工業に必要な専門知識と技術のほか、環境工学や工業倫理に関する知識も効果的に身につくように学修科目を編成します。
- 4 広い視野と豊かな心を育み、社会に貢献する姿勢を養うために、人文社会科学や自然科学が広く学べるリベラルアーツ系科目のほか、英語および第 2 外国語などにより、分野横断的知識と国際性豊かな広い視野を育みます。

以上の教育課程において、到達目標に対する到達度を

- (1) 講義科目においては、定期試験・演習・レポートなど
- (2) 卒業研究においては、卒業論文、研究発表、課題への取り組み状況など
- (3) その他の科目においては、課題への取り組み状況、レポート、発表など

により各科目のシラバスに記載されている方法で評価します。

成績は 100 点法によるものとし、60 点以上を合格として単位を認定します。成績評価の評語は次の基準によるものとします。

評価 点数

S 90 点以上 A 89 点以下 80 点以上 B 79 点以下 70 点以上 C 69 点以下 60 点以上 D 59 点以下

アドミッションポリシー

「求める学生像」

生物応用化学科は、応用化学コースと生物化学コースを設けて、化学工業、バイオ工業に必要な基礎・専門知識および技術者素養を

修得、複合化して使いこなすとともに、広い視野と豊かな心を備えて、社会に貢献できる、自立の精神に富んだ実践的、創造的技術者を育成することを目指しています。そのため次のような入学者を求めています。

- 1 生物化学技術者または応用化学技術者になる意欲を持っている人
- 2 理数系の基礎学力が身に付いている人
- 3 自立心があり、社会的ルールを守って行動できる人
- 4 他の人と対話を通して相互理解を深めようとする人

「入学者選抜の基本方針」

第一学年への入学者の選抜は、推薦による選抜及び学力検査による選抜により行う。

◇推薦による選抜

調査書、推薦書、推薦選抜志願調書、適正検査（数学）の成績及び面接の評価を総合して行う。

◇学力検査による選抜

調査書及び学力検査（理科、英語、数学、国語及び社会）の成績を総合して行う。第三学年への外国人留学生の編入学者の選抜は、高専機構が実施する選抜試験により行う。

◇高専機構による選抜

出願書類、日本留学試験の成績、TOEFL、TOEIC 又は IELTS の成績及び面接の評価を総合して行う。第四学年への編入学者の選抜は学力検査による選抜により行う。

◇学力検査による選抜

調査書及び学力検査（数学、英語及び理科）の成績を総合して行う。

◆ 材料システム工学科

ディプロマポリシー

材料システム工学科は、ものづくりの基礎となる工業材料の開発・設計・製造から利用、その後の寿命による破壊、リサイクルまで材料に関する一連の専門知識を身につけるとともに広い視野と豊かな心を備えて、社会の発展に貢献できる自立の精神に富んだ実践的、創造的材料技術者を育成することを目指しています。そのため以下のような能力を身につけ所定の単位を修得した学生に卒業を認定します。

- 1 材料システム工学に必要な金属材料、セラミックス材料および高分子材料に関する構造、性質、機能、製造プロセス、加工、リサイクル技術および関連した周辺技術、設計、解析、評価に関する基礎的な知識や技術を修得し、それらの課題を解決するために活用できる。
- 2 自ら学び工夫するとともに、他者と協力して課題の解決に積極的に行動できる。
- 3 環境に配慮しながら技術者倫理に沿って自律的に判断し、行動できる。
- 4 広い視野と豊かな心を備えて社会に貢献できる。

カリキュラム・ポリシー

材料システム工学科は、材料に関する一連（工業材料の開発・設計・製造から利用、その後の寿命による破壊、リサイクルまで）の専門知識と技術を身につけ、広い視野と豊かな心を備え、かつ自立の精神に富んだ実践的、創造的材料技術者を育成することを目指しています。それに向けて、初年次より実験・実習科目を設け、技術の実際に触れることで専門知識の必要性・有効性について理解を促します。また、中学年次までに技術者にとって不可欠な科学技術に関連する基礎知識を習得します。高学年次ではそれまでに身につけた知識と専門知識と技術を活用することに主眼を置いた科目を設けます。さらに、広い視野と豊かな心および自立の精神を養うため、一般科目と専門科目を体系的に配置し、以下のように教育課程を編成します。

- 1 材料システム工学に必要な金属材料、セラミックス材料および高分子材料に関する構造、性質、機能、製造プロセス、加工、リサイクル技術および関連した周辺技術、設計、解析、評価に関する基礎的な知識や技術を修得し、それらの課題を解決するために活用できるようにするために
(1) 初年次より全学年に実験科目を設ける。
(2) 低・中学年次に自然科学系科目を設け、講義・演習・実験を主として実施する。
(3) 低・中学年次に専門基礎科目を設け、講義・演習を主として実施する。
(4) 中・高学年次に専門科目を設け、講義・演習を主として実施する。
- 2 自ら学び工夫するとともに、他者と協力して課題解決に積極的に行動できるようにするために
(1) 初年次より専門実習科目を設け、実習を主として実施する。
(2) 初年次に専門導入科目を設け、講義・演習を主として実施する。
(3) 低学年次より全学年に実験科目を設ける。
(4) 高学年次にインターンシップ・卒業研究を設けて、実施する。

以上の教育課程において、到達目標に対する到達度を

- (1) 講義科目においては、定期試験・演習・レポートなど
- (2) 卒業研究においては、卒業論文、研究発表、課題への取り組み状況など
- (3) その他の科目においては、課題への取り組み状況、レポート、発表など

により各科目のシラバスに記載されている方法で評価します。

成績は 100 点法によるものとし、60 点以上を合格として単位を認定します。成績評価の評語は次の基準によるものとします。

評価 点数

S 90 点以上 A 89 点以下 80 点以上 B 79 点以下 70 点以上 C 69 点以下 60 点以上 D 59 点以下

アドミッションポリシー

「求める学生像」

材料システム工学科は、ものづくりの基礎となる工業材料の開発・設計・製造から利用、その後の寿命による破壊、リサイクルまで材料に関する一連の専門知識を身につけるとともに広い視野と豊かな心を備えて、社会の発展に貢献できる自立の精神に富んだ実践的、創造的材料技術者を育成することを目指しています。そのため次のような人を求めています。

- 1 材料技術者になる意欲を持っている人
- 2 理数系の基礎学力が身に付いている人
- 3 自立心があり、社会的ルールを守って行動できる人
- 4 他の人と対話を通して相互理解を深めようとする人

「入学者選抜の基本方針」

第一学年への入学者の選抜は、推薦による選抜及び学力検査による選抜により行う。

◇推薦による選抜

調査書、推薦書、推薦選抜志願調書、適正検査（数学）の成績及び面接の評価を総合して行う。

◇学力検査による選抜

調査書及び学力検査（理科、英語、数学、国語及び社会）の成績を総合して行う。第三学年への外国人留学生の編入学者の選抜は、高専機構が実施する選抜試験により行う。

◇高専機構による選抜

出願書類、日本留学試験の成績、TOEFL、TOEIC 又は IELTS の成績及び面接の評価を総合して行う。第四学年への編入学者の選抜は学力検査による選抜により行う。

◇学力検査による選抜

調査書及び学力検査（数学、英語及び理科）の成績を総合して行う。

◆ 専攻科

ディプロマポリシー

専攻科では、自立の精神と創造性に富み、広い視野と豊かな心を備えて、社会に貢献でき、先端技術及び高度情報化に対応し、国際的に活躍できる実践的・創造的研究開発能力を持った技術者を育成します。そのために、各専攻に関連する専門知識及び実践技術を身につけ、所定の単位を修得した学生に修了を認定します。

機械・電気システム工学専攻

機械・電気システム工学専攻では、機械工学、電気電子工学、制御情報工学の各コースに関連する専門知識及び実践技術を修得した学生の修了を認定します。

- 1 技術者としての広い視野と倫理観を身につけ、それらに従って行動できる。
- 2 数学、物理、情報処理に関連する基礎知識を身につけ、応用できる。
- 3 各コースに関連する専門知識を習得し、職業上応用できる。
- 4 工学基礎、ならびに機械工学の専門知識、電気電子工学の専門知識、制御情報工学の専門知識などを活用し、社会の要求する課題を解決できる。
- 5 専門分野に関連するプレゼンテーション能力と国際化に対応できる基礎的なコミュニケーション能力が備わっている。

物質工学専攻

物質工学専攻では、生物応用化学、材料工学の各コースに関連する専門知識及び実践技術を修得した学生の修了を認定します。

- 1 技術者としての広い視野と倫理観を身につけそれらに従った行動できる。
- 2 数学、物理、化学、情報処理に関連する基礎知識と応用力を身につけ、応用できる。
- 3 各コースに関連する専門知識を習得し、職業上応用できる。
- 4 工学基礎、ならびに生物応用化学の専門知識、材料工学の専門知識などを活用し、社会の要求する課題を解決できる。
- 5 専門分野に関連するプレゼンテーション能力と国際化に対応できる基礎的なコミュニケーション能力が備わっている。

カリキュラム・ポリシー

ディプロマポリシーに掲げた能力を育成するため、一般科目及び専門基礎科目において工学に関連する基礎学力、語学力、社会的責任への理解力を養うとともに、各専攻では、それぞれの分野に関連する実践的能力を養うための専門科目を配置しています。専攻科では、先端技術及び高度情報化に対応し、国際的に活躍できる実践的・創造的研究開発能力を持った技術者を育成するために、専攻ごとに必要な科目を体系的に配置した教育課程を編成します。

機械・電気システム工学専攻

- 1 技術者としての広い視野と倫理観を修得できるように
 - (1) 豊かな教養や国際性を涵養する科目を設け、講義を主とした学修方法により教授します。
 - (2) 創造的研究開発能力を身につけるための科目を設け、実験を主とした学修方法により教授します。
- 2 数学、物理、情報処理に関連する基礎知識と応用力を修得できるように
 - (1) 高度な理数系科目及び自然科学系科目を設け、講義を主とした学修方法により教授します。
 - (2) 高度情報化に対応するため、情報処理の専門科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により教授します。
- 3 各コースに関連する専門知識の習得と職業上応用できる基礎能力を身につけることができるように
 - (1) 機械分野、電気電子分野、制御情報分野の専門科目を設け、講義を主とした学修方法により教授します。
 - (2) 先端技術の知識を習得するための科目を設け、オムニバス形式の講義を主とした学修方法により教授します。
- 4 工学基礎、ならびに機械工学の専門知識、電気電子工学の専門知識、制御情報工学の専門知識などを活用し、社会の要求に対応できる問題解決能力を修得できるように
 - (1) 専攻科研究の科目を設け、論理的説明力及びプレゼンテーション能力を育成する観点から、学生と指導教員の双方向性を重視した総合的な学修を展開します。
 - (2) 創造的研究開発能力を身につけるための科目を設け、実験を主とした学修方法により教授します。
- 5 専門分野に関連するプレゼンテーション能力と国際化に対応できる基礎的なコミュニケーション能力を習得できるように
 - (1) 専攻科研究の科目を設け、論理的説明力及びプレゼンテーション能力を育成する観点から、学生と指導教員の双方向性を重視した総合的な学修を展開します。
 - (2) 豊かな教養や国際性を涵養する科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により教授します。

物質工学専攻

- 1 技術者としての広い視野と倫理観を修得できるように
 - (1) 豊かな教養や国際性を涵養する科目を設け、講義を主とした学修方法により教授します。
 - (2) 創造的研究開発能力を身につけるための科目を設け、実験を主とした学修方法により教授します。
- 2 数学、物理、化学、情報処理に関連する基礎知識と応用力を修得できるように
 - (1) 高度な理数系科目及び自然科学系科目を設け、講義を主とした学修方法により教授します。
 - (2) 高度情報化に対応するため、情報処理の専門科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により教授します。
- 3 各専門コースに関連する応用知識の習得と職業上応用できる基礎能力を修得できるように
 - (1) 生物応用化学分野、材料工学分野の専門科目を設け、講義を主とした学修方法により教授します。
 - (2) 先端技術の知識を習得するための科目を設け、オムニバス形式の講義を主とした学修方法により教授します。
- 4 工学基礎、各専門分野の基礎と専門知識などを活用し、社会の要求を解決するための企画力を修得できるように
 - (1) 専攻科研究の科目を設け、論理的説明力及びプレゼンテーション能力を育成する観点から、学生と指導教員の双方向性を重視した総合的な学修を展開します。
 - (2) 創造的研究開発能力を身につけるための科目を設け、実験を主とした学修方法により教授します。
- 5 専門技術に関連するプレゼンテーションと国際化に対応できる基礎的なコミュニケーションをする能力を習得できるように
 - (1) 専攻科研究の科目を設け、論理的説明力及びプレゼンテーション能力を育成する観点から、学生と指導教員の双方向性を重視した総合的な学修を展開します。
 - (2) 豊かな教養や国際性を涵養する科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により教授します。

成績の評価および単位認定基準

以上の教育課程において、到達目標に対する到達度を

- (1) 講義科目においては、定期試験・演習・レポートなど
- (2) 専攻科研究論文・専攻科研究基礎においては、研究論文・報告書、研究発表、課題への取り組み状況など
- (3) その他の科目においては、課題への取り組み状況、レポート、発表などにより各科目のシラバスに記載されている方法で評価します。

成績は 100 点法によるものとし、60 点以上を合格として単位を認定します。成績評価の評語は次の基準によるものとします。

評価 点数

S 90 点以上 A 89 点以下 80 点以上 B 79 点以下 70 点以上 C 69 点以下 60 点以上 D 59 点以下

アドミッションポリシー

「求める学生像」

- (1) 科学技術に対する強い探究心を持ち、積極的に取り組む人
- (2) 専門分野の基礎を修得している人
- (3) 社会性と倫理観を身につけている人
- (4) 基礎的なコミュニケーション能力を身につけている人

「入学者選抜の基本方針」

入学者の選抜は、推薦による選抜、学力検査による選抜及び企業等の推薦による社会人選抜により行う。

◇推薦による選抜

調査書、推薦書、志願調書、TOEIC スコア及び面接の評価を総合して行う。

◇学力検査による選抜

調査書、TOEIC スコア及び学力検査（専門及び数学）の成績を総合して行う。

◇企業等の推薦による社会人選抜

成績証明書、推薦書、TOEIC スコア及び面接の評価を総合して行う。

主な行事（令和7年度予定）

前期

4月

開寮
入学式、始業式、クラス写真撮影、オリエンテーション
1年生学内研修、数学診断テスト
英語外部評価テスト（本科1年生）
定期健康診断、水災害防災訓練
開校記念日



入学式

5月

専攻科入学試験（前期）
学生大会
保護者懇談会
いじめ予防講習

6月

前期中間試験
公開授業
クラスマッチ
文化部発表会



クラスマッチ

7月

九州沖縄地区高専体育大会（夏季）
前期末試験

8月

前期末試験
閉寮
夏季休業
一日体験入学
Web 学校説明会
全国高専体育大会（夏季）



一日体験入学

9月

工場見学旅行（本科4年生）
学校説明会（福岡県会場）
夏季休業
開寮
九州沖縄地区高専ロボットコンテスト



学校説明会

後期

10月

全校集会（本科生）、専攻科入試（後期）
九州沖縄地区英語プレゼンテーションコンテスト
全国高専プログラミングコンテスト
学校説明会・見学会
入試説明懇談会
ストレスマネジメント講習



全国プログラミングコンテスト

11月

高専祭
学校説明会
九州沖縄地区高専体育大会（冬季）
キャリア講習会
編入学試験



高専祭

12月

後期中間試験
クラスマッチ
学生大会
冬季休業
閉寮

1月

全国高専体育大会（冬季）
入学者選抜試験（推薦）
全校集会
冬季休業
開寮

2月

後期末試験
入学者選抜試験（学力）
特別教育期間

3月

特別教育期間、学年末休業
終業式
卒業式・修了式



卒業式・修了式

組 織

1. 組織図



2. 教職員数（令和7年5月1日現在）

(1) 教員

標準人員枠（定員）		校長	教授	准教授	講師	助教	合計
		1	37	36	0	0	74
実行人員枠（現員）	校長	1					1
	機械工学科	-	4	4	0	1	9
	電気電子工学科	-	5	2	0	3	10
	制御情報工学科	-	3	4	0	1	8
	生物応用化学科	-	5	4	0	2	11
	材料システム工学科	-	3	6	0	1	10
	一般科目（文科系）	-	5	5	0	1	11
	一般科目（理科系）	-	4	8	0	0	12
合計		1	29	33	0	9	72

※助教の現員数にはフルタイム再雇用教員（特任教授）を含む。

※現員には高専間人事交流等により転出した教員を含まない。

教員の年齢構成

年齢	教授	准教授	講師	助教	合計
60歳～	4	1	0	0	5
50歳～59歳	22	8	0	0	30
40歳～49歳	3	15	0	2	20
30歳～39歳	0	9	0	6	15
20歳～29歳	0	0	0	1	1
合計	29	33	0	9	71

※校長及び再雇用教員は除く。

※クロス・アポイントメント制度により受入中の者を含む。

(2) 職員

標準人員枠（定員）		事務部長	課長	専門員	課長補佐	係長 専門職員	技術長	技術専門員	看護師	技術・ 一般職員等	合計
		1	2	4	9	1	2	2	1	25	45
（現員） 実行人員枠	事務部長	1	-	0	0	0	0	0	0	0	1
	総務課	-	1	2	6	0	0	0	0	9	18
	学生課	-	1	2	1	0	0	0	1	5	10
	教育研究支援センター	-	-	0	0	1	2	2	0	12	15
	合計	1	2	4	7	1	2	2	1	26	44

※「技術・一般職員等」とは、技術専門職員・技術職員・主任・一般職員・フルタイム再雇用職員等をいう。

※現員には育児休業中の職員及びその代替雇用職員を含む。

3. 管理職等教職員（令和7年5月1日現在）

職名	氏名
校長	南 新平
教務主事・副校長	黒木 祥光
学生主事・副校長	石井 努
寮務主事・副校長	横溝 彰彦
専攻科主事・副校長	谷野 忠和
総務企画主事・副校長	酒井 道宏
国際担当主事・副校長	山本 郁
機械工学科長	中尾 哲也
電気電子工学科長	宮崎 浩一
制御情報工学科長	松島 宏典
生物応用化学科長	渡邊 勝宏
材料システム工学科長	岩田 憲幸

職名	氏名
一般科目（文科系）学科長	金城 博之
一般科目（理科系）学科長	高橋 正郎
総合情報センター長	小田 幹雄
図書館長	菰田智恵子
産学連携テクノセンター長	笈木 宏和
学生相談室長	森園 靖浩
キャリア支援室長	石丸 良平
事務部長	津田 雅弘
総務課長	野中 宏修
学生課長	長濱 圭一
教育研究支援センター長	谷野 忠和（併任）

一般科目

1. 概略

高専教育の特色は5年間の一貫した教育を行うことです。一般科目は専門科目と相まって、優れた技術者の育成を期するため、広い視野に立った社会人として必要な教養と創造性に富む、個性豊かな人間形成を目標とします。

一般科目のうち、文科系科目では、国際感覚を持って活躍できる技術者として必要な教養とコミュニケーション能力の養成を、また理科系科目では、数学、物理、化学等、専門工学を修得するための基礎となる十分な能力を培うことを主眼にして教育が行われています。

2. 教員

(1) 一般科目 (文科系)

氏名	役職	学位	専門分野	担当科目
金城 博之	教授／学科長	Master of Arts	英米文学、英語教育学	英語2, 応用英語1, 応用英語2, リベラルアーツ特論1, リベラルアーツ特論2
龍頭 信二	教授	修士 (教育学)	運動生理学	保健体育2, 保健体育3, 生涯スポーツ1, 生涯スポーツ2
徳永 美紀	教授	Master of Arts in TESL	英語教育学	英語1, 英語表現1, 応用英語1, 応用英語2, リベラルアーツ特論1, リベラルアーツ特論2
横溝 彰彦	教授	Master of Arts in Speech Communication	コミュニケーション学	英語2, リベラルアーツ特論1, リベラルアーツ特論2, 実践英語1
鴨川 都美	教授	博士 (文学)	日本近現代演劇／文学	国語2, リテラシー実践, 日本語, リベラルアーツ特論1, リベラルアーツ特論2, 日本語コミュニケーション
徳永 正尚	准教授	修士 (教育学)	英語教育学	英語1, 英語3, リベラルアーツ特論1, リベラルアーツ特論2
岡本 和也	准教授	修士 (文学)	中世東地中海世界の歴史	歴史, 人文社会科学探求1, 人文社会科学探求2, リベラルアーツ特論1, リベラルアーツ特論2
赤塚 康介	准教授	博士 (理学)	運動生理学	保健体育1, 保健体育2, 生涯スポーツ1, 生涯スポーツ2, リベラルアーツ特論2, 生涯スポーツ特論
福嶋 洋	准教授	修士 (スポーツ健康科学)	スポーツ医科学、コーチング	保健体育1, 保健体育2, 生涯スポーツ1, 生涯スポーツ2, リベラルアーツ特論1
常木 佳奈	准教授	博士 (文学)	日本文学	育児休業中
大家 慎也	助教	博士 (学術)	哲学、倫理学	公共, 人文社会科学探求1, 人文社会科学探求2, リベラルアーツ特論1, リベラルアーツ特論2
石塚 政吾	嘱託教授	修士 (教育学)	日本近代文学	国語1, リテラシー実践
非常勤講師			13名	

(2) 一般科目 (理科系)

氏名	役職	学位	専門分野	担当科目
高橋 正郎	教授／学科長	博士 (理学)	微分幾何	数学1, 数学2A, リベラルアーツ特論1, リベラルアーツ特論2
宮本 久一	教授	工学博士	化学	化学1, 化学2, 化学実験, 分子機能化学, 卒業研究
菰田智恵子	教授	博士 (理学)	一般位相幾何学	数学2B, 数学3A, リベラルアーツ特論1, リベラルアーツ特論2
酒井 道宏	教授	博士 (数理学)	代数的位相幾何学	数学3A, リベラルアーツ特論1, リベラルアーツ特論2, 応用数理III
山崎 有司	准教授	修士 (理学)	薄膜	物理, 応用物理1, 応用物理実験
谷 太郎	准教授	博士 (理学)	素粒子論	物理, 応用物理1, 応用物理実験, 現代物理学
小山 暁	准教授	博士 (人間・環境学)	高分子物理学, シミュレーション	応用物理2, 応用物理実験, リベラルアーツ特論1, リベラルアーツ特論2
黒飛 敬	准教授	博士 (理学)	化学	化学1, 化学2, 化学実験, 応用化学実験, 分子機能化学, 卒業研究
三木 弘史	准教授	博士 (理学)	確率模型、統計力学	数学1, 数学3B, リベラルアーツ特論1, リベラルアーツ特論2, 応用数理II
沖田 匡聡	准教授	博士 (数理学)	偏微分方程式論	数学1, リベラルアーツ特論1, リベラルアーツ特論2, 応用数理I
中村 駿介	准教授	博士 (理学)	グラフ理論	数学1, 数学2A, リベラルアーツ特論1, リベラルアーツ特論2
加藤 裕基	准教授	博士 (理学)	数論幾何学	数学2A, 数学3A, リベラルアーツ特論1, リベラルアーツ特論2,
非常勤講師			7名	

3. 主な教育研究用設備

設備名称	本設備による教育研究上の効果
ラーニングcommons	小人数教育のための学習空間で、学習支援や個別指導を行う。
マルチメディア教室 (LL 教室)	視聴覚設備・教材を用いて、主にリスニング能力の向上を目指す。
英語多読室	約 1,500 冊の多読教材を完備し、授業で Extensive Reading を行う。
応用物理実験室 (PJ)	本科学士の応用物理実験授業に使用し、基礎知識と実験技術を修得させる。
一般化学実験室	本科学士の化学実験授業に使用し、基礎知識と実験技術を修得させる。
赤外分光光度計	有機化合物の官能基の測定を行う。
旋光度計	光学活性体の旋光度の測定を行う。
紫外可視分光光度計	紫外光および可視光の吸収スペクトルの測定を行う。

4. 教育課程（令和7年度1年生基準）

授 業 科 目			単位数	学 年 別 配 当					備 考
				1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	
必修科目	国語	国語 1	4	4					
		国語 2	2		2				
		リテラシー実践	2			2			留学生は履修しない
	社会	地理	2	2					
		歴史	2		2				
		公共	2		2				
		人文社会科学探求 1	1			1			留学生は履修しない
		人文社会科学探求 2	1			1			留学生は履修しない
	数 学	数学 1	6	6					
		数学 2A	4		4				
		数学 2B	2		2				
		数学 3A	4			4			
		数学 3B	2			2			
	理 科	物理	4		4				
		化学 1	3	3					C は 4 単位
		化学 2	2		2				C は 1 単位
		生物	1	1					A, E, S, M
		地学	1	1					A, E, S, M
		生物学 1	2	2					C
	英 語	英語 1	4	4					
		英語表現 1	2	2					
		英語 2	4		4				
		英語表現 2	2		2				
		英語 3	4			4			学修単位
		応用英語 1	2				2		学修単位
		応用英語 2	2				2		学修単位
保健・体育	保健体育 1	2	2						
	保健体育 2	2		2					
	保健体育 3	2			2				
	生涯スポーツ 1	2				2			
	生涯スポーツ 2	1					1		
芸術	美術	1	1					A, S, C, M	
	音楽	1	1					E	
科目教養	リベラルアーツ特論 1	1				1			
	リベラルアーツ特論 2	1				1			
必修科目修得小計			77	29	26	16	8	1	
選択科目	外国語 第二	中国語	1				1	(1)	いずれか 1 単位を 4 年次に修得。 (4 年次修得できなかった場合は、5 年次に履修可)
		韓国語	1				1	(1)	
		フランス語	1				1	(1)	
	選択科目修得小計			1				1	(1)
一般科目修得合計									

※ A：機械工学科 E：電気電子工学科 S：制御情報工学科 C：生物応用化学科 M：材料システム工学科

機械工学科

1. 概略

機械工学科は、以下の教育目的・目標の下、主に機械設計、機械加工、機械の4力学（材料力学、機械力学、流体力学、熱力学）に関する教育を行っています。

最先端のものづくりのため、3次元設計・解析・製造過程のデジタルエンジニアリング教育を実践しているのが本学科の特徴です。

卒業生は、主に航空・宇宙、自動車、重工業、エネルギー・環境、ロボット、電力、鉄鋼、電機、化学、医薬品・食品など広範囲な産業分野で活躍しています。

2. 教育目的・目標

(1) 教育目的

ものづくりの精神を基本とし、機械技術者としての基礎能力や専門技術を修得し、創造性豊かで国際的視野に立った実践的技術者を育成する。

(2) 教育目標

機械技術者としての素養を備え、基礎的な知識、技術を修得し、それらを活用できる能力を養成する。

3. 教員

氏名	役職	学位	専門分野	担当科目
中尾 哲也	教授／学科長	博士（情報工学）	制御工学	工業力学、四力学演習、専門基礎（機械工学）、機械力学、制御工学、機械要素設計実験、計算力学、応用情報処理演習、創造工学実験
中武 靖仁	教授	博士（工学）	環境エネルギー工学	機械設計製図、機械工学セミナー、伝熱工学、地球環境と現代生物学、機械工学概論（電気・生化）
石丸 良平	教授	博士（工学）	歯車工学	機械製図3、機械設計製図、リベラルアーツ特論1、リベラルアーツ特論2、機構学、専門基礎（機械工学）、設計システム工学、機械工学特論
谷野 忠和	教授	博士（工学）	流体工学	応用数学1、四力学演習、流体工学、機械要素設計実験、流体機械、先端工学特論
青野 雄太	准教授	博士（工学）	材料力学	CAD 演習、材料力学1、材料力学2、四力学演習、短期インターンシップ、機械要素設計実験、弾塑性力学、破壊力学
細野 高史	准教授	博士（工学）	特殊加工	機械工学・情報処理基礎、確率・統計、機械加工学、専門基礎（機械工学）、精密加工学、応用数学3、品質管理、機械加工実習1、機械加工実習2、機械加工実習3、生産加工学
南山 靖博	准教授	博士（工学）	安全工学	機械工学・情報処理基礎、情報リテラシー、CAD 演習、専門基礎（機械工学）、応用数学2、安全工学と工業倫理、労働安全衛生論、技術社会の安全と倫理
渡邊 悠太	准教授	博士（工学）	表面処理	機械製図1、図学、機械要素設計実験、創造工学実験
上野虎太郎	助教	博士（工学）	鉄鋼材料	機械製図2、材料力学2、機械工学・情報処理基礎、先端工学特論
全員が担当することを基本とする授業科目				卒業研究、専攻科研究基礎、専攻科研究論文、機械工学概論、機械工学実験
非常勤講師			9名	

4. 主な教育研究用設備

設備名称	本設備による教育研究上の効果
複合加工機	様々な加工を1台で行うことのできる数値制御工作機械
5軸マシニングセンタ	5軸加工により滑らかな曲面の加工ができる数値制御工作機械
ワイヤ放電加工機	板状の素材を精度良く複雑な形状に加工する機械
表面粗さ・輪郭形状複合測定機	製品の表面粗さや輪郭形状を1台で測定できる測定機
精密万能試験機	金属材料の引張試験、圧縮試験、曲げ試験など各種試験ができる試験機
走査電子顕微鏡	表面構造や表面の形状を高倍率、高分解能で観察する顕微鏡
3次元プリンタ	3次元のデジタルデータをもとに現実の物体を作る装置
高速度カメラ	動く対象物を撮影し、スローモーションで再生する装置

5. 教育課程（令和7年度1年生基準）

授 業 科 目			単位数	学 年 別 配 当					備 考
				1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	
必修科目	専門数学	確率・統計	2			2			学修単位
		応用数学 1	1				1		
		応用数学 2	1				1		
	専門理科	応用物理 1	2			2			
		応用物理 2	2			2			
		応用物理実験	2			2			
		化学実験	2		2				
	技術者素養	機械工学・情報処理基礎	1	1					
		安全工学と工業倫理	1				1		
		工業英語	1				1		
		機械工学セミナー	2					2	学修単位
	設計開発	図学	2		2				
		機械製図 1	2	2					
		機械製図 2	2		2				
		CAD 演習	1			1			
		機械製図 3	4			4			
		機械設計製図	4				4		
		機械要素設計実験	2					2	
		機械設計法 1	2				2		
		機械設計法 2	1					1	
		機構学	1				1		
	力学	工業力学	2				2		
		機械力学	2					2	学修単位
		材料力学 1	1			1			
		材料力学 2	2				2		
		四力学演習	2				2		
	制御情報	情報リテラシー	1		1				
		制御情報工学概論	1			1			学科横断科目
		制御工学	2					2	学修単位
	製造技術	機械加工学	1			1			
		精密加工学	1				1		
		品質管理	1					1	
		機械加工実習 1	3	3					
		機械加工実習 2	3		3				
		機械加工実習 3	3			3			
		材料システム工学概論	1			1			学科横断科目
	熱流体	流体工学	2				2		
		流体機械	2					2	学修単位
		工業熱力学	2				2		
		伝熱工学	2					2	学修単位
		機械工学実験	3				3		
		卒業研究	12					12	
	関連専門	電気電子工学概論	1					1	学科横断科目
		化学工学概論	1					1	学科横断科目
	必修科目修得小計			89	6	10	20	25	28
選択科目	短期インターンシップ		1				1		
	半導体工学概論 1		1				1		
	半導体工学概論 2		1				1		
	専門基礎（機械工学）		2			2			3 年留学生のみ履修（必修）
	機械工学概論		1				1		4 年生編入学生のみ履修
	選択科目修得小計		0 以上				0 以上		
	専門科目修得合計		89 以上	6	10	20	53 以上		

修得単位数総計

一般	必修科目	77	26	26	16	8	1	
	選択科目	1				1	(1)	
	小計	78	26	26	16	10		
専門	必修科目	89	6	10	20	25	28	
	選択科目	0 以上				0 以上		
	小計	89 以上	6	10	20	53 以上		
総修得単位数		167 以上	32	36	36	63 以上		

※学科横断科目：他学科の教員がその専門を講義する科目

電気電子工学科

1. 概略

電気電子工学科では、以下の教育目的・目標の下、主に電気工学、電子工学、情報工学、通信工学等の電気電子工学各分野に関する教育を行っています。

工学基礎を学ぶ講義を始め、実験、インターンシップ、卒業研究等のものづくり重視の実践的教育科目をバランス良く配置し、あらゆる分野の問題解決に取り組める応用力育成を図るのが、本学科の特徴です。

卒業生は、製造業、エネルギー産業に加え、流通、情報産業に渡る広い分野の技術者として活躍しています。さらに、一定の実務経験により電気主任技術者の国家資格を得ることができます。

2. 教育目的・目標

(1) 教育目的

先端技術であるエレクトロニクスと ICT、及びこれらを支える電気エネルギーの専門知識を修得し、高度情報通信社会に貢献できる実践的、創造的電気電子技術者を育成する。

(2) 教育目標

電気電子技術者としての素養を備え、専門知識と技術を修得し、それらを総合的に活用できる能力を養成する。

3. 教員

氏名	役職	学位	専門分野	担当科目
宮崎 浩一	教授／学科長	博士（工学）	プラズマ科学	電気電子演習 1、専門基礎（電気電子工学）、高電圧工学、短期インターンシップ、パワーエレクトロニクス、電力応用、情報理論、先端工学特論、電気電子工学特論、プラズマ工学
越地 尚宏	教授	博士（理学）	物性物理、工学教育	情報リテラシー、プログラミング 1、電磁気学 1、電気電子演習 3、専門基礎（電気電子工学）、電磁気学 3、応用物理 2、応用数学 1、応用数学 2、電気電子実験 2、量子力学、教養化学
平川 靖之	教授	博士（工学）	レーザー分析	電気電子工学基礎、電気電子 CAD、電気回路 2、専門基礎（電気電子工学）、電気回路 3、応用電磁気学、光エレクトロニクス
山口 崇	教授	博士（工学）	磁気応用・計測	プログラミング 3、論理回路、システム工学
村上 秀樹	教授	博士（工学）	半導体工学	電気電子演習 2、電気電子実験 1、半導体工学、集積回路工学、確率統計
ウリントヤ	准教授	博士（工学）	高周波工学	電気回路 1、電気電子演習 2、マイコン制御、電気電子計測、コミュニケーション、デジタル信号処理、創造工学実験
山本 哲也	准教授	博士（工学）	磁気応用・計測	電磁気学 2、電気機器工学 1、電気機器工学 2、電気電子実験 2、電力応用、電気電子実験 3
中川原光洋	助教	博士（工学）	信号処理	プログラミング 2、電気電子演習 2、電気電子演習 3、技術社会の安全と倫理、電気電子実験 2、電気電子設計、電気電子実験 3
原田裕二郎	助教	博士（工学）	集積回路工学	電気電子演習 1、電子回路、プログラミング 2、制御工学、計算機アーキテクチャ、電気電子工学概論、創造工学実験
林 秀原	助教	博士（工学）	パルスパワー応用	電気電子演習 2、電気電子演習 3、電気電子実験 2、電気電子実験 3、電力発生工学、電力システム
全員が担当することを基本とする授業科目				卒業研究、専攻科研究論文、専攻科研究基礎、総合基礎演習
非常勤講師			5 名	

4. 主な教育研究用設備

設備名称	本設備による教育研究上の効果
バッテリーシミュレーター IPM モータ駆動システム	回生型直流電源とインバータによる永久磁石同期モータ駆動について学ぶことができる。
太陽光エネルギーシミュレータシステム	太陽光発電機器の特性をシミュレーションを通して学ぶことができる。
高電圧発生・測定システム	150kV 程度の高電圧試験（絶縁・放電）を行うことができる。
テラヘルツ時間領域分光システム	最新のテラヘルツ分光システムを用いて高度な研究を行うことができる。
パルスレーザー装置	YAG レーザーと OPO により真空紫外から赤外まで広い波長域の高出力パルス光を用いて研究を行うことができる。
半導体デバイス電気特性評価システム	半導体ウェハの C-V 特性および I-V 特性の評価を行うことができる。
プロセス・デバイスシミュレータ	半導体素子の作成工程及び電気特性のシミュレーションを行うことができる。
LabVIEW / ELVIS / ROBOTICS システム一式	20 セット以上保有し電気電子計測／デジタル制御を実践で学ぶことができる。

5. 教育課程（令和7年度1年生基準）

授 業 科 目			単位数	学 年 別 配 当					備 考
				1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	
必修科目	電気電子基礎	電気電子工学基礎	1	1					
		電磁気学 1	1		1				
		電磁気学 2	2			2			
		電磁気学 3	1				1		
		電気回路 1	1		1				
		電気回路 2	2			2			
		電気回路 3	2				2		
		半導体工学	2				2		学修単位
		応用物理 1	2			2			
		応用物理 2	2				2		
		確率統計	1			1			
		応用数学 1	2				2		
		応用数学 2	2				2		
	エネルギー・制御	電気機器工学 1	1			1			
		電気機器工学 2	1				1		
		パワーエレクトロニクス	2				2		学修単位
		高電圧工学	2				2		学修単位
		電力発生工学	1					1	
		電力システム	1				1		
		電力応用	1					1	
		機械工学概論	1				1		学科横断科目
	制御工学	2				2		学修単位	
	コンピュータ・情報通信	情報リテラシー	1	1					
		プログラミング 1	1	1					
		プログラミング 2	2		2				
		プログラミング 3	1			1			
		計算機アーキテクチャ	1				1		
		論理回路	2			2			
		電子回路	2				2		
		マイコン制御	1			1			
		電気電子計測	2				2		学修単位
		情報理論	1					1	
		情報インフラストラクチャー	1					1	
	通信ネットワーク	1					1		
	工業・設計	技術社会の安全と倫理	1				1		
		電気施設管理	1					1	
		技術英語基礎	1					1	
		システム工学	1					1	
		電気電子 CAD	2		2				
		電気電子設計	1					1	
		電気電子材料	1				1		学科横断科目
		生物応用化学概論	1				1		学科横断科目
	実験・実習・演習	化学実験	2		2				
応用物理実験		2			2				
総合基礎演習		2	2						
電気電子演習 1		1	1						
電気電子演習 2		2		2					
電気電子演習 3		2			2				
電気電子実験 1		2			2				
電気電子実験 2		4				4			
電気電子実験 3		2					2		
卒業研究		12					12		
必修科目小計		89	6	10	18	32	23		
選択科目	短期インターンシップ	1				1			
	半導体工学概論 1	1				1			
	半導体工学概論 2	1				1			
	専門基礎（電気電子工学）	2			2			留学生のみ履修（必修）	
	電気電子工学概論	1				1		4 年生編入学生のみ履修	
	選択科目小計		0 以上				0 以上		
専門科目修得合計		89 以上	6	10	18	55 以上			

修得単位数総計

一般	必修科目	77	26	26	16	8	1	
	選択科目	1				1	(1)	
	小計	78 以上	26	26	16	10		
専門	必修科目	89	6	10	18	30	25	
	選択科目	0 以上				0 以上		
	小計	89 以上	6	10	18	55 以上		
総修得単位数		167 以上	32	36	34	65 以上		

※学科横断科目：他学科の教員がその専門を講義する科目

制御情報工学科

1. 概略

半導体の驚異的な性能向上により、パソコンのみならず、自動車・電化製品を始めとするあらゆる製品にコンピュータが組み込まれています。

制御情報工学科では、このような情報化社会に対応すべく、コンピュータを用いた機械や電子機器（例えばロボット、デジタルカメラ、全自動洗濯機）を制御するメカトロニクス技術および情報工学の専門知識を修得する教育課程を設けています。

2. 教育目的・目標

(1) 教育目的

制御、情報を中心とした幅広い専門知識を修得し、広い視野と豊かな創造性を備え、さまざまな産業分野において活躍できる実践的能力に優れた技術者を育成する。

(2) 教育目標

メカトロニクスや情報の分野で活躍できる技術者になるために必要な基礎的な知識、技術を修得し、それらを活用できる能力を養成する。

3. 教員

氏名	役職	学位	専門分野	担当科目
松島 宏典	教授/学科長	博士（工学）	高度道路交通システム	計算機ネットワーク、応用数学2、創造プログラミング演習、離散数学、データサイエンスと人工知能1、データサイエンスと人工知能2、応用情報処理、パターン認識、確率統計
小田 幹雄	教授	博士（工学）	知能情報工学	情報処理基礎、電子計算機基礎、情報セキュリティ、専門基礎（制御情報工学）、デジタル回路設計、計算機アーキテクチャ1、計算機アーキテクチャ2、情報通信実験、形式言語とオートマトン、制御情報工学特論、制御情報工学概論（機械）
黒木 祥光	教授	博士（工学）	画像処理	応用数学1、信号処理、情報理論、画像工学
中野 明	准教授	博士（情報工学）	教育工学	プログラミング2、オブジェクト指向プログラミング、専門基礎（制御情報工学）、データベース基礎、ソフトウェア工学、コンパイラ、オペレーティングシステム、情報通信実験、短期インターンシップ
堺 研一郎	准教授	博士（工学）	スピン磁気量子物性	電気回路1、電気回路2、電磁気学、パワーエレクトロニクス、半導体材料工学、電子情報実験、先端工学特論
古賀 裕章	准教授	博士（工学）	医用画像処理	プログラミング1、プログラミング3、専門基礎（制御情報工学）、電子回路、創造プログラミング演習、数値計算法、データ構造とアルゴリズム、電子情報実験、コンピュータグラフィックス
田中 諒	准教授	博士（工学）	システム制御理論	CAD 演習、ロボット工学、制御工学実験、システム制御工学、デジタル信号処理
上田 拓実	助教	博士（工学）	制御工学	機構学、シーケンス制御、専門基礎（制御情報工学）、ロボット工学、工業倫理と安全、創造工学実験
原 模 真也	嘱託教授	修士（工学）	ロボット工学、メカトロニクス	加工実習、計測工学、制御工学1、制御工学2、制御工学実験、創造工学実験
全員が担当することを基本とする授業科目				制御情報工学概論、卒業研究、専攻科研究基礎、専攻科研究論文
非常勤講師			3名	

4. 主な教育研究用設備

設備名称	本設備による教育研究上の効果
電気電子工学実験装置	本科実験科目で利用し、電子回路の理解を深める。
6軸ロボットアーム DOBOT Magician10 台	本科講義科目等で利用し、ロボット工学などの理解を深める。
RaspberryPi 開発キット（FaBo）14 セット	本科演習科目で利用し、人工知能の理解を深める。
レゴマインドストーム EV3 48 セット	本科演習科目で利用し、人工知能およびロボットの理解を深める。
GPU による並列計算機サーバ7 台	高速計算が可能のため、本科及び専攻科の研究で利用している。
演習用パーソナルコンピュータ 25 台	本科実験科目等で利用し、情報処理、プログラミングなどの理解を深める。
実験用モビリティ4 台	安全運転に関するデータが取得可能なため、本科及び専攻科の研究で利用している。

5. 教育課程（令和7年度1年生基準）

授 業 科 目		単位数	学 年 別 配 当					備 考
			1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	
必修科目	専門共通基礎	制御情報工学概論	1					
		化学実験		2				
		応用物理 1			2			
		応用物理 2			2			
		応用物理実験			2			
		応用数学 1				2		
		応用数学 2				1		
		確率統計				2		
		離散数学				2		
		信号処理				2		学修単位
		情報理論					2	学修単位
		工業倫理と安全					1	
		工業英語					1	
	メカトロニクス	製図		1				
		加工実習		2				
		機構学		1				
		CAD 演習			1			
		機械工学概論				1		学科横断科目
		電気回路 1			2			
		電気回路 2				2		
		電子回路				2		
		電磁気学				2		
		パワーエレクトロニクス					1	
		半導体材料工学					1	
		物質工学概論					1	学科横断科目
		通信工学					1	
		電子情報実験					2	
		シーケンス制御			1			
		計測工学				1		
		制御工学 1				2		
		制御工学 2					1	
		ロボット工学					2	
		制御工学実験					2	
	情報	情報処理基礎	2					
		プログラミング 1	1					
		プログラミング 2		2				
		プログラミング 3			1			
		オブジェクト指向プログラミング			1			
		数値計算法				2		
		データ構造とアルゴリズム				1		
		データベース基礎				2		学修単位
		ソフトウェア工学				1		
		オペレーティングシステム					1	
		コンパイラ					2	学修単位
		電子計算機基礎			2			
		論理回路			2			
		デジタル回路設計				1		
		計算機アーキテクチャ					2	
		計算機ネットワーク			1			
		情報セキュリティ			1			
		データサイエンスと人工知能 1				1		
		データサイエンスと人工知能 2					1	
		創造プログラミング演習				2		
		情報通信実験					2	
	卒業研究		7				7	
	必修科目修得小計		89	4	8	18	29	30
選択科目	短期インターンシップ	1				1		
	半導体工学概論 1	1				1		
	半導体工学概論 2	1				1		
	専門基礎（制御情報工学）	2			2			留学生のみ履修（必修）
	制御情報工学基礎 A	1				1		4 年生編入学生のみ履修
	制御情報工学基礎 B	1				1		4 年生編入学生のみ履修
	選択科目小計	0 以上				0 以上		
専門科目修得合計		89 以上	4	8	18	59 以上		
修得単位数総計								
一般	必修科目	77	26	26	16	8	1	
	選択科目	1				1	(1)	
	小計	78	26	26	16	10		
専門	必修科目	89	4	8	18	29	30	
	選択科目	0 以上				0 以上		
	小計	89 以上	4	8	18	59 以上		
総修得単位数		167 以上	30	34	34	69 以上		

※学科横断科目：他学科の教員がその専門を講義する科目

生物応用化学学科

1. 概略

生物応用化学学科は、以下の教育目的・目標の下、主に化学、生物学、技術者素養に関する教育を行っています。低学年において基礎科目を幅広く学習し、4年次から応用化学コースと生物化学コースに分かれ専門的に学ぶことができることが本学科の特徴と言えます。卒業生の半数は本科卒業後に就職し、主に総合化学工業、医療器・医薬品工業、食品工業で活躍しています。残り半数は、(国立)大学へ編入学または専攻科へ進学し、さらに高度な科目を継続して学習します。

2. 教育目的・目標

(1) 教育目的

化学工業、バイオ工業に必要な基礎・専門知識及び技術者素養を修得し、個別の知識を複合化して使いこなし、社会に貢献できる実践的・創造的技術者を育成する。

(2) 教育目標

化学工業、バイオ工業に必要な専門知識、豊富な実験技術を修得し、環境に配慮し技術者倫理を守って、それらを課題解決及び企画立案に活用できる能力を養成する。

3. 教員

氏名	役職	学位	専門分野	担当科目
渡邊 勝宏	准教授/学科長	博士(工学)	高分子化学	基礎有機化学1, 分析化学実験, 基礎有機化学2, 有機化学1, 有機化学実験, 高分子化学1, 高分子化学2, 応用化学実験, 高分子材料特論, 有機構造化学
中島 裕之	教授	博士(農学)	生化学	生物学2, 基礎生物化学実験, 生物化学実験, 遺伝子・細胞工学, 生物工学実験, バイオ工学, 生物応用化学概論, 生体機能分子学, 分子生物学, 化学工学概論(機械), 物質工学概論(制御)
辻 豊	教授	博士(理学)	有機化学	化学1, 分析化学実験, 酸塩基化学, 有機化学実験, 有機合成化学, 応用化学実験, 教養化学
梶 隆彦	教授	博士(工学)	反応工学	創造化学実験, 物理化学1, 物理化学2, 応用化学実験, 物化・化工実験, バイオ工学, 化学工学2, 応用物理化学, 化学工学概論(機械)
笈木 宏和	教授	博士(農学)	微生物学	基礎生物化学実験, 情報化学2, 生物化学実験, 有機化学2, 代謝工学, 生物工学実験, 環境工学, 生体物質化学, 創造工学実験
石井 努	教授	博士(工学)	機能有機化学	分析化学実験, 有機化学実験, 有機金属化学, 機能有機材料, 応用化学実験, 機器分析, 有機化学反応
松田 貴暁	准教授	博士(工学)	応用化学	高分子材料学, 基礎溶液化学, 化学平衡論, 有機化学実験, 無機化学1, 応用化学実験, 生物工学実験, 物化・化工実験, 品質・安全工学, ポリマー工学, 機能有機材料特論
萩原 義徳	准教授	博士(理学)	構造生物学	生物学1, 情報化学1, 基礎生物化学実験, 酵素構造工学, 生物化学実験, 遺伝子・細胞工学, 生物工学実験, 技術英語
我部 篤	准教授	Doctor of Philosophy (Materials Science)	化学工学	創造化学実験, 応用化学実験, 化学工学1, 物化・化工実験, 品質・安全工学, 工業物理化学2, 産業財産権・工業倫理, 化学工学特論, 創造工学実験
中島めぐみ	助教	修士(医科学)	心身医学	生物学1, 創造化学実験, 化学2, 化学工学基礎, 生物化学実験, 生物有機化学, 生物工学実験, 情報処理演習, 生物応用化学概論, 地球環境と現代生物学, 先端工学特論
谷本 勝一	助教	博士(理学)	計算化学、生物物理	生物学2, 基礎生物化学実験, 基礎無機化学, 生物工学実験, 工業物理化学1, 物化・化工実験, 応用情報処理演習
全員が担当することを基本とする授業科目				科学技術史, 短期インターンシップ, 専攻科研究基礎, 専攻科研究論文, 卒業研究, 生物応用化学特論, 生物応用化学情報基礎, 生物応用化学概論(生化), 専門基礎(生物応用化学)
非常勤講師			3名	

4. 主な教育研究用設備

設備名称	本設備による教育研究上の効果
核磁気共鳴装置	有機分子や生体分子の分子構造を決定できる。
PCR 装置	DNA 試料から特定の遺伝子領域を増幅し、研究や検査に利用できる。
GPC 装置	ゴム・繊維・プラスチックなどの高分子材料の分子量を決定できる。
蛍光顕微鏡	肉眼では見えない小さな生物や細胞を発光で観察できる。
原子吸光分光光度計	水溶液中の微量金属イオンの濃度を測定し、水環境分析等に利用できる。
テンシロン万能試験機	ゴム・繊維・プラスチックなどの高分子材料の力学特性を評価できる。
ゼータ電位・粒径測定システム	ナノ粒子やタンパク質の粒子径や分散安定性を評価できる。
熱分析装置	温度による物質の構造や重量の変化を評価できる。

5. 教育課程（令和7年度1年生基準）

授 業 科 目		単位数	学 年 別 配 当					備 考
			1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	
必修科目	専門概念	生物学2		2				
		基礎無機化学			2			学修単位
		酸塩基化学			1			
		基礎有機化学1		1				
		基礎有機化学2			1			
		物理化学1			1			
		物理化学2				1		
		無機化学1				1		
		無機化学2				1		学科横断科目
		有機化学1			1			
		有機化学2				1		
		高分子化学1				1		
	専門分野Ⅰ	有機金属化学				1		
		有機合成化学				1		
		高分子化学2				1		
		機能有機材料				1		
		応用化学実験				3		
		ポリマー工学					2	学修単位
	専門分野Ⅱ	生物有機化学				1		
		遺伝子工学				1		
		細胞工学				1		
		代謝工学				1		
		生物工学実験				3		
		バイオ工学					2	学修単位
	設計・開発	化学工学1				2		
		化学工学2					4	学修単位
		機器分析1				1		
		機器分析2				1		
		工業物理化学1				1		
		工業物理化学2					1	
		機械工学概論					1	学科横断科目
		電気電子工学概論					1	学科横断科目
	専門関連分野	基礎溶液化学		1				
		化学平衡論		1				
		酵素構造工学			2			学修単位
		応用数学				2		
		応用物理1			2			
		応用物理2			2			
		応用物理実験			2			
		環境工学					2	学修単位
		情報化学1		2				
		情報化学2			1			
		化学工学基礎			1			
		情報処理演習				2		学修単位・学科横断科目
		創造化学実験	2					
		分析化学実験		2				
		基礎生物化学実験		3				
		有機化学実験			3			
		生物化学実験			3			
		物化・化工実験				3		
		生物応用化学情報基礎	1	1				
		品質・安全工学				2		学修単位
		産業財産権・工業倫理					2	学修単位
		卒業研究	11				11	
		工業英語	1				1	
		必修科目修得小計	88	3	12	22	26	25
選択科目	科学技術史	1				1	(1)	1単位以上修得
	短期インターンシップ	1				1		
	半導体工学概論1	1				1		
	半導体工学概論2	1				1		
	専門基礎（生物応用化学）	2			2			留学生のみ履修（必修）
	生物応用化学概論	1				1		4年生編入学生のみ履修
	選択科目修得小計	11 ^{以上}				1 ^{以上}		
専門科目修得合計		89 ^{以上}	3	12	22	52 ^{以上}		

修得単位数総計

一般	必修科目	77	27	25	16	8	1	
	選択科目	1				1	(1)	
	小計	78	27	25	16	10		
専門	必修科目	88	3	12	22	26	25	
	選択科目	1 ^{以上}				1 ^{以上}		
	小計	89 ^{以上}	3	12	22	52 ^{以上}		
総修得単位数		167 ^{以上}	30	37	38	62 ^{以上}		

※学科横断科目：他学科の教員がその専門を講義する科目

材料システム工学科

1. 概略

材料システム工学科は、以下の教育目的・目標の下、私たちの生活を支える優れた製品を創り出すために、その基礎となる材料の知識や技術を修得するための教育、それらの知見に基づいた新しい材料や機能性を高めた材料を開発するための研究を行っています。

この学科を卒業する学生には、将来のものづくりを支える技術者になって欲しいと願い、実験・実習を多く取り入れた実践的な教育を進めています。材料工学を学ぶことができる高専は、全国には4高専しかなく、このことは本学科の特徴となっています。

卒業生は、主に鉄鋼・非鉄等の素材メーカーをはじめ、機械、輸送機器、電機、エネルギー等の産業分野で活躍しています。

2. 教育目的・目標

(1) 教育目的

ものづくりの基礎となる工業材料の開発・設計・製造から利用、その後の寿命による破壊、リサイクルまでの材料に関する一連の専門知識を身につけ、社会の発展に貢献できる技術者を育成する。

(2) 教育目標

金属、セラミックス、高分子材料などに関する基礎的な知識や技術を修得し、それらを活用できる能力を養成する。

3. 教員

氏名	役職	学位	専門分野	担当科目
岩田 憲幸	教授/学科長	博士（工学）	材料化学	基礎材料化学、材料システム実験1、セラミックス材料学1、セラミックス材料学2、工業英語、材料システム実験4、材料工学概論、機能性無機材料学
森園 靖浩	教授	博士（工学）	材料組織学	材料システム工学概論、材料組織学、材料システム実験2、金属材料学1、材料工学概論、接合工学・複合材料、輸送現象論
山本 郁	教授	博士（工学）	材料組織制御	図学、材料システム実験2、専門基礎（材料システム工学）、塑性加工学、融体加工学、材料システム実験5、材料工学特論、材料組織制御
矢野 正明	准教授	博士（工学）	電気化学	電気化学1、材料システム実験3、電気化学2、環境工学、材料システム実験5、表面処理工学
周 致霆	准教授	博士（工学）	構造材料物性学	金属物理学1、材料システム実験2、専門基礎（材料システム工学）、情報処理2、金属物理学2、材料システム実験5、結晶構造解析学、高温強度学
清長 友和	准教授	博士（工学）	材料化学	材料化学1、専門基礎（材料システム工学）、材料システム実験3、物理化学2、工業英語、材料工学概論、触媒材料化学、応用情報処理演習
吉武 靖生	准教授	博士（工学）	鑄造工学	材料加工実習、情報処理1、工業英語、材料システム実験4、金属材料学2、品質工学
佐々木大輔	准教授	博士（工学）	材料強度学	機械加工学、材料力学、応用設計製図・CAE、材料強度学、材料評価学、材料システム実験5、構造材料学
小袋 由貴	准教授	博士（工学）	材料化学	情報処理1、材料化学2、材料システム実験3、無機化学2、技術英語
小林 領太	助教	博士（理学）	磁気物性	情報リテラシー、材料物性学1、工業英語、材料システム実験4、材料工概論、短期インターンシップ、材料物性学2、
全員が担当することを基本とする授業科目				材料工学・情報処理入門、卒業研究、専攻科研究基礎、専攻科研究論文
非常勤講師			4名	

4. 主な教育研究用設備

設備名称	本設備による教育研究上の効果
透過電子顕微鏡	材料の内部構造や組織を原子レベルで観察・分析することができる。
電界放出形走査電子顕微鏡	材料表面の組織を高倍率で観察しながら元素分析が可能である。
X線回折装置	粉末、薄膜、固体物質の相同定や結晶構造解析を行うことができる。
走査型X線光電子分光分析装置	材料の極表面層領域の元素組成や化学結合状態の分析が可能である。
ICP発光分光分析装置	液体中に含まれる元素やイオンの定性分析・定量分析ができる。
高温引張試験装置	材料の高温環境下における伸びや強度を測定することが可能である。
マイクロビッカース硬さ試験機	材料表面を観察しながら微小領域の硬さを計測することができる。
計装化シャルピー衝撃試験機	材料の耐衝撃性、粘り強さ、脆さを評価することが可能である。

5. 教育課程（令和7年度1年生基準）

授 業 科 目		単位数	学 年 別 配 当					備 考
			1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	
必修科目	材料工学・情報処理入門	2	2					
	情報リテラシー	1		1				
	情報処理1	1		1				
	情報処理2	1				1		学科横断科目
	応用数学1	2				2		
	応用数学2	1				1		
	応用数学3	1					1	
	応用物理1	2			2			
	応用物理2	2			2			
	材料加工実習	3	3					
	図学	1	1					
	基礎設計製図	1		1				
	応用設計製図・CAE	2				2		
	電気電子工学概論	1				1		学科横断科目
	機械加工工学	1			1			
	基礎材料化学	2		2				
	セラミックス材料学1	1			1			
	セラミックス材料学2	1				1		
	材料化学1	2			2			
	材料化学2	2				2		
	物理化学1	2			2			
	物理化学2	2				2		
	高分子材料学	1					1	学科横断科目
	電気化学1	1				1		
	電気化学2	1					1	
	環境工学	1					1	
	金属物理学1	2			2			
	金属物理学2	1				1		
	材料物性学1	1				1		
	材料物性学2	2					2	
	材料力学	2			2			
	塑性加工工学	2				2		
	材料組織学	1			1			
	材料強度学	2					2	学修単位
	金属材料学1	2				2		
	金属材料学2	2					2	学修単位
	融体加工工学	1					1	
	テクニカルコミュニケーション	2					2	学修単位
	工業英語	2				2		学修単位
	安全工学・工業倫理	1					1	学科横断科目
	品質工学	1					1	
	化学実験	2		2				
	応用物理実験	2			2			
	材料システム実験1	2		2				
	材料システム実験2	2			2			
	材料システム実験3	3				3		
	材料システム実験4	3				3		
	材料システム実験5	3					3	
	卒業研究	9					9	
必修科目修得小計		88	6	9	19	27	27	
選択科目	短期インターンシップ	1				1		
	半導体工学概論1	1				1		
	半導体工学概論2	1				1		
	接合工学・複合材料	1					1	1単位以上修得
	金属熱処理論	1					1	
	専門基礎（材料システム工学）	2			2			留学生のみ履修（必修）
	材料工学概論	1				1		4年生編入学生のみ履修
選択科目修得小計		1 以上				1 以上		
専門科目修得合計		89 以上	6	9	19	55 以上		
修得単位数総計								
一般	必修科目	77	26	26	16	8	1	
	選択科目	1				1	(1)	
	小計	78	26	26	16	10		
専門	必修科目	88	6	9	19	27	27	
	選択科目	1 以上				1 以上		
	小計	89 以上	6	9	19	55 以上		
総修得単位数		167 以上	32	35	35	65 以上		

※学科横断科目：他学科の教員がその専門を講義する科目

専攻科

1. 概略

専攻科は、高等専門学校を卒業した者に対して、精深な程度において、特別の事項を教授し、その研究を指導するために置かれる組織です。

本校は、高等専門学校卒業生に対して、継続性のあるより高度な技術者教育を行うことを目的として、平成5年に九州で初めて専攻科を設置しました。

本校専攻科は、修業年限2年の機械・電気システム工学専攻（3コース）及び物質工学専攻（2コース）から成り、更に高度な専門知識を追求するだけではなく、充実した実験、研究を行うことにより、独創的な研究開発や先端技術に対応できる技術者の育成を目指しています。

なお、本校専攻科の修了生は、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構より、同機構が通常課している試験を受験することなく学士号を授与されます。



2. 特色

専攻科は少人数定員の特性を活かした充実した教育研究環境を備え、本科との継続性を重視した教育を行っています。

なお、修得した工学的知識や技術が、実践的にどの程度応用できるかを経験させるためインターンシップを選択科目に設け、実践的技術者としての資質を高める教育課程を設定しています。

また、工学に関するテーマを学生自身で立案し、それを解決するための計画、実験、評価を各自で行う創造工学実験を必修科目に設けることで、自主性、創造性並びに行動力の向上を図っています。

3. 教育目的

次のような実践的、創造的技術者を育成する。

- ア 先端技術及び高度情報化に対応できる技術者
- イ 創造的研究開発能力を持った技術者
- ウ 国際化に対応できる技術者

4. コースごとの教育目標

◆ 機械工学コース

- 一 技術者倫理
 - ア 技術者倫理を広い視野から多面的に考えることができる。
 - イ 技術者倫理に対しその責任を理解できる。
 - ウ 技術者倫理に対しその責任を自覚できる。
- 二 数学、物理、情報処理に関する知識と応用力
 - ア 数学に関する知識を専門分野に応用できる。
 - イ 物理に関する知識を専門分野に応用できる。
 - ウ 情報処理に関する知識を専門分野に応用できる。
- 三 機械工学に関する専門知識の習得と職業上応用できる基礎能力の育成
 - ア 材料と強度に関する専門知識を習得し、職業上応用できる基礎能力を身に付ける。
 - イ 機械設計に関する専門知識を習得し、職業上応用できる基礎能力を身に付ける。
 - ウ 生産工学に関する専門知識を習得し、職業上応用できる基礎能力を身に付ける。
 - エ 熱・流体工学に関する専門知識を習得し、職業上応用できる基礎能力を身に付ける。
 - オ 制御・情報技術に関する専門知識を習得し、職業上応用できる基礎能力を身に付ける。
- 四 工学的な解析能力・考察力の育成及び機器操作の習得
 - ア 機械工学を学ぶ上で必要な各種の機械や機器の操作ができる。
 - イ 実験・演習の結果を工学的に解析し考察できる。
- 五 自主的にテーマを企画立案し、創造的かつ継続的に実施できる。
- 六 種々の工学的知識や技術を利用し、自己学習やグループ学習により社会の要求を解決できる。
- 七 専門技術に関するプレゼンテーションと国際化に対応できる基礎的なコミュニケーション
 - ア 専門技術に関するプレゼンテーションができる。
 - イ 国際化に対応できる基礎的なコミュニケーションができる。
- 八 与えられた条件のもとで技術者として地域社会に貢献できる。

◆ 制御情報工学コース

- 一 技術者としての広い視野と倫理観
 - ア 豊かな心を持ち、広い視野で物事を捉えることができる。
 - イ 技術者としての倫理観を持ち、技術が社会、自然環境に及ぼす効果や影響を理解できる。
- 二 基礎工学の知識と応用力
 - ア 数学、自然科学、情報に関する知識を持ち、基礎的な工学問題の解決に応用できる。
 - イ 制御、情報工学専門周辺の基礎工学に関する知識を持ち、基礎的な工学問題の解決に活用できる。
- 三 専門工学の知識と応用力
 - ア 制御、情報及びこれらに関連した機械、電気電子分野の専門知識を持ち、工学問題の解決に応用できる。
 - イ 各専門分野の知識、技術を複合的に関連づけることができる。
 - ウ 前(ア)の分野の基礎的な知識・技術をもとに実験し、分析、考察することができる。
- 四 学んだ知識や技術をベースにして社会の要求に対する解決法を立案し、実現までの手順を計画することができる。
- 五 コミュニケーション力
 - ア 日本語での自己の考えや知識を的確に表現し、議論することができる。
 - イ 英語による基礎的なコミュニケーションができる。
- 六 実践力
 - ア 他者と協力して課題に取り組むことができる。
 - イ 自ら学んで、必要な知識や情報を獲得し、継続的に学習できる。
 - ウ 与えられた課題に対して、計画的に作業を進め、期限内にまとめることができる。

◆ 電気電子工学コース

- 一 先端の電気エネルギーをマネジメントできる電気電子技術の習得
 - ア 電気エネルギーの発生やその制御のしくみを理解し説明できる。
 - イ 電気エネルギーに関する専門的知識、技術を設計に応用できる。
- 二 先端の情報通信・電子機器を活用できる電気電子技術の習得
 - ア ICT 電子機器のしくみを理解し説明できる。
 - イ ICT 電子機器に関する知識、技術を設計に応用できる。
- 三 もの、製品をベースにした技術実務能力の習得
 - ア 電力、電気、電子機器に関する実験を計画、遂行できる。
 - イ 実験データを解析、考察し説明できる。
 - ウ 共同で実験・演習を遂行できる。
- 四 電気電子技術の基礎となる学力の修得
 - ア 数学、物理などの自然科学や情報技術に関する基礎事項を説明できる。
 - イ 自然科学や情報技術に関する基礎事項を電気電子技術の専門領域で適用できる。
- 五 技術に関するコミュニケーション能力の育成
 - ア 分かりやすく論理的に情報や意見を文書や口頭で伝達できる。
 - イ 英語により電気電子技術に関する基本的なコミュニケーションができる。
- 六 技術者倫理感覚の育成
 - ア 技術が地域社会や国際社会あるいは自然環境に及ぼす影響、効果を理解できる。
 - イ 規格、品質、安全性等に関する技術者の責任を説明できる。
- 七 企画・管理能力の育成
 - ア 産業や社会との連携活動や実験・実習の中から技術的な課題を見出すことができる。
 - イ 技術的な課題を解決するための計画を立案し遂行できる。

◆ 生物応用化学コース

- 一 技術者倫理と多面的視野
 - ア 技術者として必要な倫理観を身に付け、管理能力、社会に対する説明責任能力を習得する。
 - イ 地球的規模で環境を考え技術をデザインする能力を習得する。
- 二 生物応用化学基礎と工学基礎
 - ア 生物及び化学に関する基礎知識を習得する。
 - イ 物理、数学及び情報技術を工学に応用できる。
- 三 生物応用化学の専門知識と応用力
 - ア 生物化学もしくは応用化学に必要な専門知識及び両分野に共通して必要な専門知識を習得し、それらを当該工業分野に応用することができる。
 - イ 生物化学もしくは応用化学に必要な実験技術及び両分野に共通して必要な実験技術を体得し、それらを種々の問題解決に応用することができる。
- 四 生物応用化学基礎、工学基礎、生物応用化学の専門知識を活用し、社会の要求を解決するための企画力を持っている。
- 五 国際化に対応できるコミュニケーション基礎能力を習得する。
- 六 自主的にテーマを企画立案し、創造的かつ継続的に実施することができる。
- 七 地域社会を中心とした産業界に技術者として広く貢献できる。

◆ 材料工学コース

一 自然科学及び情報処理技術に関する知識

- ア 数学、物理、化学などの自然科学に関する基礎知識とその応用力を身に付ける。
イ 情報処理に関する知識や技術を専門分野に適応させる能力を身に付ける。

二 材料に関する基礎的知識と応用力

- ア 材料、特に金属及びセラミックス材料の物性、構造、性質についての基礎知識を身に付ける。
イ 材料、特に金属及びセラミックス材料の製造プロセスについての基礎知識を身に付ける。
ウ 材料に関する基礎的知識を工学問題の解決に活用できる能力を身に付ける。

三 工学的な基礎原理・現象を実験によって理解できる能力を身に付ける。

四 調査及び実行能力

- ア 課題に対して自主的に調査する能力を身に付ける。
イ 計画性を持って物事に取組み、実行する能力を身に付ける。
ウ 課題の結果を間違いの少ない文章及び口頭で表現し、討論できる能力を身に付ける。

五 外国に関する知識及び国際的コミュニケーションの基礎能力を身に付ける。

六 多面的視野と技術者倫理

- ア 技術の人間社会や自然環境への関わりを理解し、グローバルに物事を考える能力を身に付ける。
イ 技術者の社会的責任を自覚する能力を身に付ける。

七 インターンシップなどの実務経験を通して、多面的に物事を考える能力を身に付ける

5. 教育課程（令和7年度1年生基準）

(1) 各専攻・コース共通

授業科目			授業形態	単位	学年別配当		備考
					1 年次	2 年次	
一般科目	必修	実践英語Ⅰ	講義	2	2		
		実践英語Ⅱ	講義	2	2		
		実践英語Ⅲ	講義	2		2	
	一般科目必修単位計			6	4	2	
	選択	日本語コミュニケーション	講義	2		2	2 単位以上修得
		生涯スポーツ特論	講義	2		2	
		専攻科特論一般Ⅰ	講義又は演習	2	2		4 単位以内
		専攻科特論一般Ⅱ	講義又は演習	2		2	
	一般科目選択開設単位計			8	2	6	
	専門基礎科目	必修	地球環境と現代生物学	講義	2	2	
現代物理学			講義	2	2		
応用情報処理演習			演習	2	2		
専門基礎科目必修単位小計			6	6	0		
選択		応用数理Ⅰ	講義	2	2		10 単位以上修得
		応用数理Ⅱ	講義	2	2		
		応用数理Ⅲ	講義	2		2	
		量子力学	講義	2	2		
		教養化学	講義	2	2		
		画像工学	講義	2	2		
		応用情報処理	講義	2	2		
		統計力学及び熱力学	講義	2		2	
		専攻科特論専門Ⅰ	講義	2		2	4 単位以内
		専攻科特論専門Ⅱ	講義	2		2	
専門基礎科目選択開設単位小計			20	12	8		
専門基礎科目開設単位計			26	18	8		
一般科目、専門基礎科目開設単位合計			40	24	16		

(2) 機械・電気システム工学専攻

授業科目		授業形態	単位数	学年別配当		備考		
				1 年次	2 年次			
必修	創造工学実験	実験	2	2				
	技術英語	演習	1		1			
	先端工学特論	講義	2	2				
	専攻科研究基礎	実験	4	4				
	専攻科研究論文	実験	10		10	学位申請等論文		
	専門科目必修単位小計		19	8	11			
専門科目選択	弾塑性力学	講義	2	2		A	*	*
	破壊力学	講義	2	2		A	*	*
	応用流体力学	講義	2	2		A	*	*
	生産加工学	講義	2		2	A	*	*
	移動現象論	講義	2	2		A	*	*
	計算力学	講義	2		2	A	S	*
	設計システム工学	講義	2	2		A	*	E
	メカトロニクス工学	講義	2		2	A	S	E
	システム制御工学	講義	2	2		A	S	E
	デジタル制御	講義	2	2		A	S	E
	労働安全衛生論	講義	2		2	A	*	*
	コンピュータグラフィックス	講義	2		2	*	S	*
	パターン認識	講義	2		2	*	S	*
	形式言語とオートマトン	講義	2	2		*	S	E
	データベース	講義	2	2		*	S	*
	コンピュータサイエンス	講義	2		2	*	S	E
	応用電磁気学	講義	2	2		*	S	E
	光エレクトロニクス	講義	2		2	*	*	E
	集積回路工学	講義	2	2		*	*	E
	デジタル信号処理	講義	2	2		*	S	E
	プラズマ工学	講義	2		2	*	*	E
	機械工学特論	講義	2	2		集中講義		
	電気電子工学特論	講義	2	2		集中講義		
	制御情報工学特論	講義	2	2		集中講義		
	専攻科インターンシップ	実習	2	2		A	S	E
	専門科目選択開設単位小計		50	32	18	A, S, E の各区分 30 単位から 14 単位以上、修得のこと。		
	専門科目開設単位計		69	40	29			
全開設単位合計 (一般科目、専門基礎科目を含む。)			109	64	45			
全科目修得単位合計 (一般科目、専門基礎科目を含む。)			62 単位以上					
全開設単位合計 (機械工学系)			89	54	35	備考欄の*は 他専攻扱いの科目 (4 単位以内)		
全開設単位合計 (制御情報系)			89	52	37			
全開設単位合計 (電気電子系)			89	54	35			

※Aは機械工学系、Sは制御情報系、Eは電気電子系の履修科目を示す。

(3) 物質工学専攻

授業科目			授業 形態	単位数	学年別配当		備考	
					1 年次	2 年次		
必修	創造工学実験	実験	2	2				
	技術英語	演習	1		1			
	先端工学特論	講義	2	2				
	専攻科研究基礎	実験	4	4				
	専攻科研究論文	実験	10		10	学位申請等論文		
	専門科目必修単位小計		19	8	11			
専門科目 選択	有機反応化学	講義	2	2		C	*	
	有機構造化学	講義	2		2	C	*	
	生体機能分子学	講義	2	2		C	*	
	生体物質化学	講義	2	2		C	*	
	化学工学特論	講義	2		2	C	*	
	機能有機材料特論	講義	2	2		C	*	
	分子生物学	講義	2		2	C	*	
	分子機能化学	講義	2		2	C	M	
	高分子材料特論	講義	2	2		C	M	
	応用物理化学	講義	2		2	C	M	
	機能性無機材料学	講義	2	2		C	M	
	半導体材料	講義	2	2		C	M	
	材料組織制御	講義	2		2	*	M	
	構造材料学	講義	2	2		*	M	
	触媒材料化学	講義	2	2		*	M	
	表面処理工学	講義	2	2		*	M	
	高温強度学	講義	2		2	*	M	
	輸送現象論	講義	2	2		*	M	
	結晶構造解析学	講義	2	2		*	M	
	生物応用化学特論	講義	2	2		集中講義		
	材料工学特論	講義	2	2		集中講義		
	専攻科インターンシップ	実習	2	2		C	M	
	専門科目選択開設単位小計			44	30	14	C及びMともそれぞれ 30 単位中 14 単位以上修得のこと。	
	専門科目開設単位計			63	38	25		
全開設単位合計 (一般科目、専門基礎科目を含む。)			103	62	41			
全科目修得単位合計 (一般科目、専門基礎科目を含む。)			62 単位以上					
開設単位合計（生物応用化学系）			89	52	37	備考欄の＊は 他専攻扱いの科目 （4 単位以内）		
開設単位合計（材料工学系）			89	54	35			

※Cは生物応用化学系、Mは材料工学系の履修科目を示す。

図書館

1. 概略

1階の図書館スペースには、グループ学習スペース、個別学習ブース、閲覧室があり、閲覧室内には DVD 等を鑑賞できる AV ルームや直木賞作家であり本校の卒業生である安部龍太郎氏のコーナーを設置しています。閲覧室内は工学系専門書、参考書をはじめ、文学作品や人文社会系、語学系と多数の図書を配架しています。また、本校学生・教職員だけでなく、学外の方への利用開放も行っています。

2. 蔵書等

(1) 蔵書冊数

令和 7 年 4 月 1 日現在

分類	総記	哲学・宗教	歴史	社会科学	自然科学	工学・技術	産業	芸術・体育	語学	文学	その他	合計
和書	4,203	5,369	6,008	5,285	15,975	16,922	554	2,651	2,498	11,265	31,501	102,231
洋書	106	38	93	83	2,155	1,508	17	7	1,659	1,020	2,548	9,234
合計	4,309	5,407	6,101	5,368	18,130	18,430	571	2,658	4,157	12,285	34,049	111,465

(2) データベース・電子ジャーナル

令和 7 年 4 月 1 日現在

名称	内容
Science Direct	エルゼビアの科学・技術・医学・社会科学分野の電子ジャーナル
AIP	米国物理学協会 (American Institute of Physics) の電子ジャーナル
APS	米国物理学会 (American Physical Society) の電子ジャーナル
JDream III	科学技術振興機構提供 (JOIS の Web 版) データベース
MathSciNet	AMS 製作による、学術論文書誌・抄録・レビュー並びに著者情報のデータベース
ACS	米国化学会 (American Chemical Society) の電子ジャーナル
CiNii	学協会刊行物・大学研究紀要・国立国会図書館の雑誌記事索引データベース等、学術論文情報を検索の対象とする論文データベース・サービス



学生相談室・保健室

学生相談室は、学生が直面する様々な悩みなどに対して、担任や授業担当教員と同様にその解決をサポートするところです。学生相談室のメンバーは、学生相談室長・室員（教員）・看護師・カウンセラー・ソーシャルワーカー・精神科医（必要に応じて来校）で構成されています。

カウンセラー及びソーシャルワーカー並びに精神科医は専門職の立場で学生の悩み等を聞き、必要なアドバイス及び解決へのサポートを行います。

学生相談室の活動は Web ページでも確認することができます。学生だけでなく、保護者や担任の先生からの相談も受け付けています。



学生相談室



保健室

ものづくり教育センター

ものづくり教育センターは“ものをつくる基礎技術”をベースに、IT 技術を応用した新世代の生産技術へ発展させ、新しい機械加工やスマート電力の生産制御技術へ対応できる技術者の育成と、産業界への技術的な貢献が可能な施設です。

従来の基礎的な実習（木型、鋳造、鍛造・溶接、機械加工・手仕上げ）を行う設備を確保しつつ、レーザー加工機や NC 工作機械を導入し、IT 技術を応用したものづくり教育に対応できる実習環境です。



ワイヤー放電加工機



機械加工実験実習室

総合情報センター

総合情報センターは「Information」、「Communication」および「Computing」に関連する業務全体の組織的運用を目指しており、情報を積極的に提供あるいは活用して、本校の情報処理を合理的かつ効率的に実行し、教育・研究の支援を行うとともに事務系業務の合理化を推進しています。



第一 IT 演習室

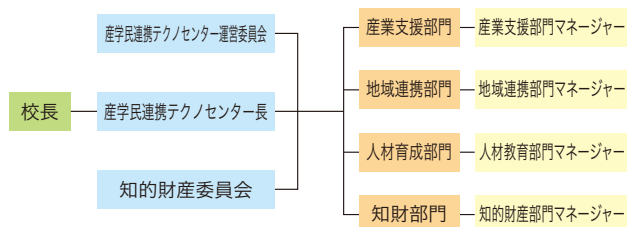


多目的室

産学民連携テクノセンター

産学民連携テクノセンターは、下図の組織構成により本校の教育研究の発展に寄与するとともに地域社会における技術開発及び技術教育の進行に資することを目指します。

産学民連携テクノセンター組織図



産学民連携テクノセンターのミッション

》地域産業界・民間企業との連携

共同研究等の連携制度により、民間企業等の研究内容、テーマ及びニーズに対応しています。

また、テクノネット久留米と連携し、地場産業の高度化、産業力強化のための研究を推進しています。

》地域の行政・公設機関との連携

本校の教育・研究資源を広く開放し、各種公開講座を解説しています。

》初等・中等教育機関との連携

高専の持つ教育資源を活用し、地域の初等中等教育機関への支援を行っています。

》大学・高専などの高等教育機関との連携

高等教育コンソーシアム久留米等との連携を基礎に、フォーラム、講演会、セミナー等を実施しています。

》教育・研究資源の情報発信

本校の刊行物等を通じて研究者の教育・研究資源情報を発信しています。

キャリア支援室

キャリア支援室は、「低学年から高学年までの高専生活全体に渡る、就職・進学を網羅した学生のキャリアパスの確立のサポート」を目的として活動しています。学生の進路指導は、就職主任の教員や5年担任の教員を中心に、各学科内の密な連携のもと、少人数教育の利点を活かした細やかな指導や助言を行っています。各学科には、学生が就職・進学に関する情報を自由に閲覧、アクセスできるようにするために、進路指導室やスペースを設け進学・就職の関連資料を提供しています。

学校行事としての本科4年時における工場見学旅行の他に関係部門と協力しながら次のような取り組みを実施しています。

- (1) 本科及び専攻科インターンシップ
- (2) 卒業生・修了生によるキャリア教育講演会や企業説明会
- (3) 大学編入や大学院進学の実績がある大学等による説明会
- (4) キャリアアップセミナーなどの講演会
- (5) TOEIC や SPI 模試など進路に関する試験

進路選択のさらなるサポートと共に、学生の将来の目標を見据えた、日々の学習モチベーションアップも目指しています。



キャリアアップセミナー



進路指導・資料用スペース（材料システム工学科）の例

学生寮

1. 概略

本校の学生寮は、男子学生のための「筑水寮」と女子学生のための「つつじ寮」の二棟からなります。筑水寮は、その名を本校の傍を流れる筑後川に由来し、久留米高専設立当初から続く伝統のある寮です。また、つつじ寮は2012年に建設され、久留米市の市花「久留米つつじ」から名付けられました。主にアジア圏からの留学生や特別聴講生を含め200名（男子170名、女子30名）の寮生が生活を共にしています。

学生寮の運営は、寮務主事室の指導の下で、寮長を含む、寮生会役員が中心となって行われております。勉学以外にも、寮生会が中心となって、寮祭、防災訓練、外部寮視察、テーブルマナー講習会、ヘルスチェックキャンペーン等、一年を通して様々な活動を行っています。

寮の出入口はオートロック方式で警備され、3年生までは二人部屋、4年生以上は個室です。エアコンも完備され、インターネットへのアクセスも可能です。また、筑水寮は令和4年度に一部改修を行い、新たにコモンスペースを設置しました。コモンスペースは、寮生の個別学習室として利用されています。食事面では、栄養のバランスを考慮したメニューが提供されており、健康で安心して生活できるよう配慮されています。



寮水寮居室



つつじ寮居室



寮食堂



コモンスペース

2. 入寮者数

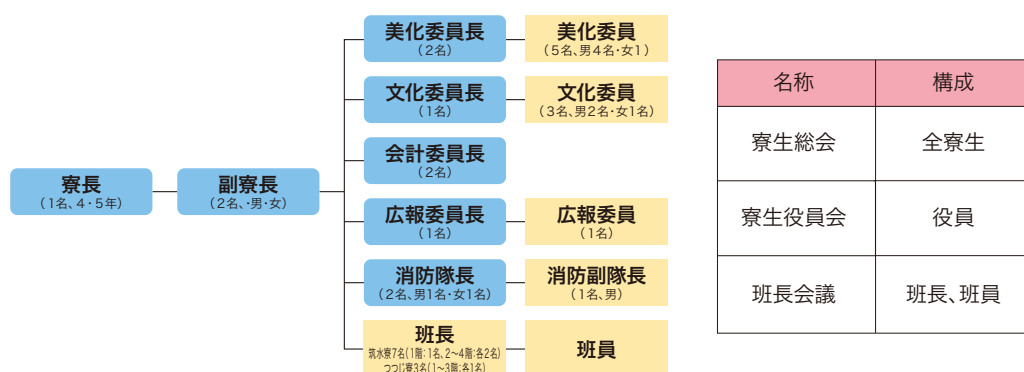
令和7年5月1日現在

区分	本科					専攻科		合計
	1年	2年	3年	4年	5年	1年	2年	
男	50 (0)	32 (0)	34 (4)	32 (3)	18 (3)	2 (0)	2 (1)	170 (11)
女	8 (0)	5 (0)	5 (0)	7 (1)	5 (1)	0 (0)	0 (0)	30 (2)
合計	58 (0)	37 (0)	39 (4)	39 (4)	23 (4)	2 (0)	2 (1)	200 (13)

※（ ）内の数値は留学生数で内数。

3. 寮生会

学生寮の運営は、寮務主事室の指導の下で、寮長を含む寮生会が中心となって行われています。



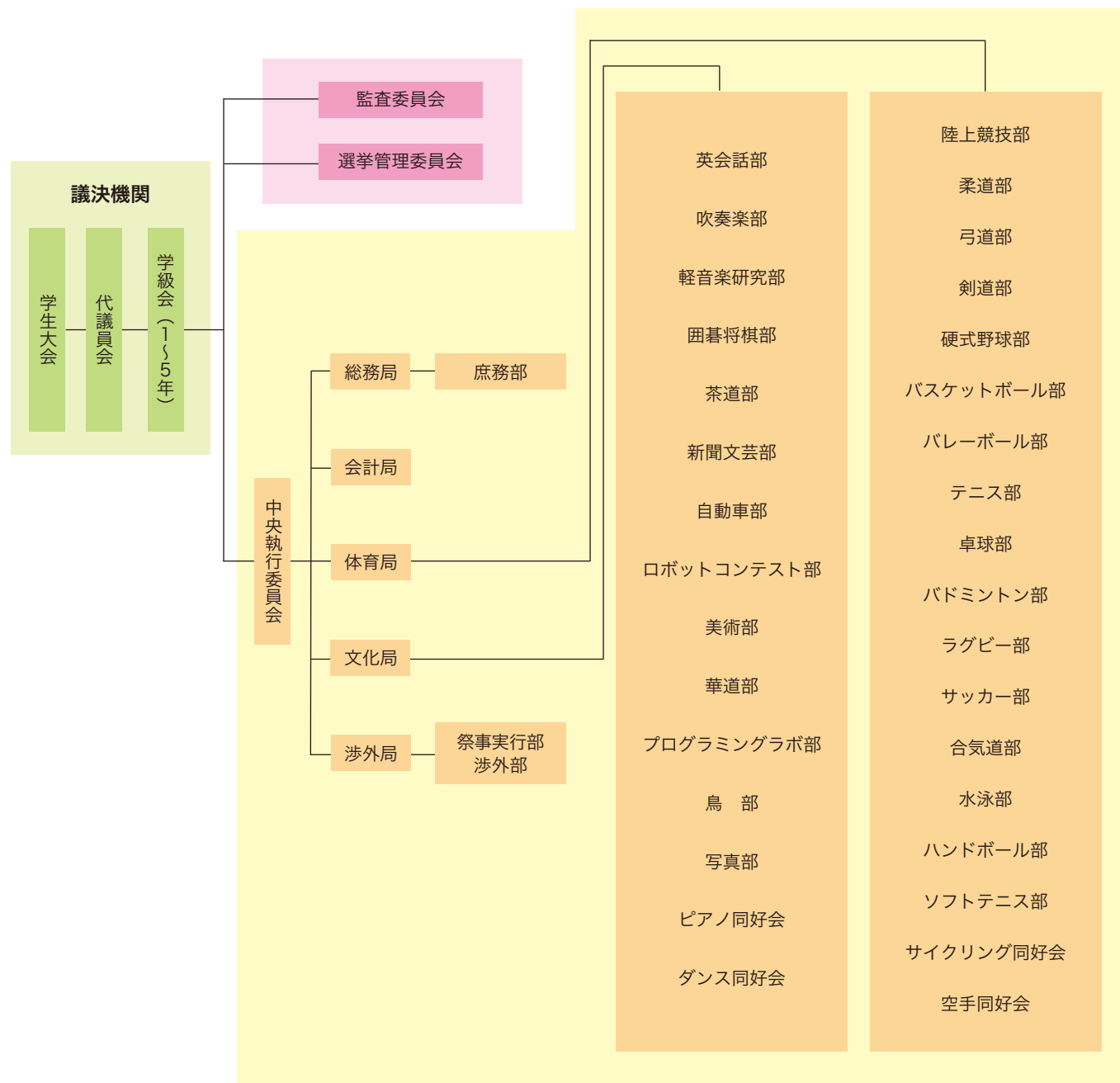
4. 年間行事

4月 - 開寮 - 新入生保護者説明会 - 対面式・寮生総会 - ごみ分別講習会 - 第1回食堂&寮生会懇談会 - 避難訓練 - 留学生歓迎会	5月 - 寮祭 - 寮生保護者総会	6月 - 外部視察 - ヘルスチェックキャンペーン - テーブルマナー講習会 - 第2回食堂&寮生会懇談会	8月 - 大掃除 - 閉寮	9月 開寮
10月 - 第3回食堂&寮生会懇談会 - 非常食シュミレーション - 防災訓練	11月 料理教室	12月 - 第4回食堂&寮生会懇談会 - 寮祭 - 大掃除 - 閉寮	1月 - 開寮 - 寮成人式 - 寮生総会	3月 閉寮

学生会

1. 概略

本校学生会は、学生相互の自治活動を通じて相互の調和、学芸の研究及び民主的社會人としての心身の修養に努め、もって学生生活の向上を図ることを目的としており、下図のとおり組織されています。



2. 年間行事

4月・クラブ紹介

5月・学生大会

6月・クラスマッチ
・文化部発表会
・献血

8月・校内・地域の清掃活動

11月・高専祭
・ビジネスマナー講習会

12月・クラスマッチ
・学生大会

1月・予餞会

3月・校内一斉清掃

入学・在学状況

1. 定員・現員

令和7年5月1日現在

学科等	入学定員	総定員	現 員							
			1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	計		
本科	200	1,000	221 (44) [-]	206 (55) [-]	217 (55) [4]	227 (39) [4]	188 (51) [4]	1,059 (244) [12]		
機 械 工 学 科	40	200	44 (7) [-]	43 (8) [-]	40 (4) [1]	56 (5) [1]	38 (5) [1]	221 (29) [3]		
電 気 電 子 工 学 科	40	200	46 (4) [-]	41 (5) [-]	43 (6) [1]	45 (4) [1]	34 (1) [-]	209 (20) [2]		
制 御 情 報 工 学 科	40	200	45 (4) [-]	38 (7) [-]	44 (7) [1]	45 (3) [1]	41 (8) [1]	213 (29) [3]		
生 物 応 用 化 学 科	40	200	42 (17) [-]	43 (21) [-]	44 (25) [1]	39 (16) [1]	39 (23) [1]	207 (102) [3]		
材 料 シ ス テ ム 工 学 科	40	200	44 (12) [-]	41 (14) [-]	46 (13) [-]	42 (11) [-]	36 (14) [1]	209 (64) [1]		
専攻科	20	40	38 (7) [-]	46 (5) [1]				84 (12) [1]		
機 械 ・ 電 気 シ ス テ ム 工 学 専 攻	12	24	25 (3) [-]	30 (3) [1]				55 (6) [1]		
物 質 工 学 専 攻	8	16	13 (4) [-]	16 (2) [-]				29 (6) [-]		

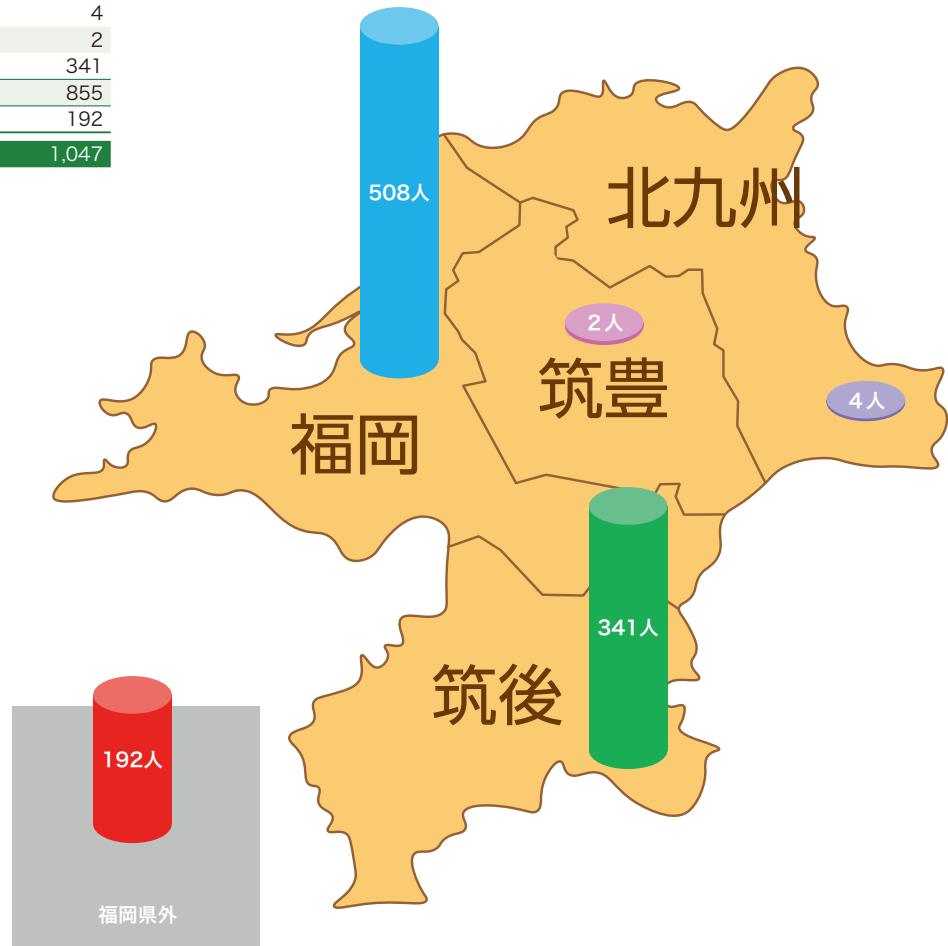
() は女子数で内数
[] は留学生数で内数

2. 出身中学別学生数

令和7年5月1日現在

出身中学所在地	学生数
福岡県内	
福岡地域	508
北九州地域	4
筑豊地域	2
筑後地域	341
県内小計	855
福岡県外	192
総 合 計	1,047

※留学生は除く。



卒業・修了状況

1. 卒業・修了者数（令和6年度）

	本科						専攻科		
	機械工学科	電気電子工学科	制御情報工学科	生物応用化学科	材料システム工学科	合計	機械・電気システム工学専攻	物質工学専攻	合計
卒業・修了者	34（4）	39（4）	40（4）(1)	37（19）	39（11）	189（42）	21（1）	17（4）	38（5）
内 就職	19（3）	20（1）	23（2）	26（12）	18（9）	106（27）	13（1）	4（1）	17（2）
内 進学	15（1）	18（3）	15（2）(1)	11（7）	19（2）	78（15）	8（0）	13（3）	21（3）
内 その他	0（0）	1（0）	2（0）	0（0）	2（0）	5（0）	0（0）	0（0）	0（0）

（ ）は女子で内数 （ ）は留学生で内数

2. 進学状況（令和6年度）

(1) 本科

進学先	機械工学科	電気電子工学科	制御情報工学科	生物応用化学科	材料システム工学科	合計
九州大学 工学部			1		2	3
九州大学 経済学部	1					1
九州工業大学 工学部	1			1	1	3
九州工業大学 情報工学部		2	5			7
熊本大学 工学部	2	3	2	1	4	12
佐賀大学 理工学部				1		1
東北大学 工学部		1				1
豊橋技術科学大学 工学部		2			1	3
長岡技術科学大学 工学部					1	1
富山大学 都市デザイン学部					1	1
東京科学大学 物質理工学院					1	1
筑波大学 理工学群		1				1
筑波大学 生命環境学群				2		2
千葉大学 工学部				1		1
京都工芸繊維大学 応用生物学部				1		1
神戸大学 工学部				1		1
広島大学 情報科学部			2			2
岡山大学 理学部		1				1
本校 専攻科	11	7	5	3	8	34
合計	15	17	15	11	19	77

(2) 専攻科

進学先	機械・電気システム工学専攻	物質工学専攻	合計
九州大学大学院	3	11	14
九州工業大学大学院	3		3
熊本大学大学院		1	1
東北大学大学院	1		1
東京科学大学大学院	1		1
総合研究大学院大学		1	1
合計	8	13	21

3. 就職状況

(1) 本科

卒業年度	就職希望者数	求人数	求人倍率	就職者数					就職率（％）
				九州地区	関西地区	関東地区	その他	計	
令和2年度	98	3501	36	19	12	57	7	95	97%
令和3年度	107	3318	31	37	12	43	13	105	98%
令和4年度	79	3532	45	28	7	32	10	77	97%
令和5年度	95	3753	40	20	10	51	12	93	98%
令和6年度	108	3658	34	27	15	58	6	106	98%

(2) 専攻科

卒業年度	就職希望者数	求人数	求人倍率	就職者数			就職率（％）
				福岡県内	福岡県外	計	
令和2年度	19	1,311	69	5	14	19	100%
令和3年度	23	1,249	54	4	19	23	100%
令和4年度	18	1,317	73	3	14	17	94%
令和5年度	20	1,418	71	2	18	20	100%
令和6年度	17	1,353	80	2	15	17	100%

(3) 産業別就職状況（令和6年度）

区分	学科	本科						専攻科		
		機械工学科	電気電子工学科	制御情報工学科	生物応用化学科	材料システム工学科	合計	機械・電気システム工学専攻	物質工学専攻	合計
製造業	食料品・飲料・たばこ・飼料製造業	0	0	0	5	0	5	0	0	0
	繊維工業	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	印刷・関連連業	0	1	0	0	1	2	0	0	0
	化学工業、石油・石炭製品製造業	2	1	0	17	0	20	1	3	4
	鉄鋼業、非鉄金属・金属製品製造業	2	0	0	0	7	9	0	0	0
	はん用・生産用・業務用機械器具製造業	3	0	0	2	4	9	0	0	0
	電子部品・デバイス・電子回路製造業	0	11	2	0	2	15	4	1	5
	電気・情報通信機械器具製造業	5	2	0	0	0	7	2	0	2
	輸送用機械器具製造業	2	0	3	0	0	5	1	0	1
	その他の製造業	0	1	0	0	0	1	1	0	1
農業、林業		0	0	0	0	0	0	0	0	0
建設業		0	0	0	0	0	0	0	0	0
電気・ガス・熱供給・水道業		1	0	2	1	0	4	0	0	0
情報通信業		0	0	14	0	0	14	3	0	3
卸売業・小売業		0	0	0	0	1	1	0	0	0
金融業・保険業		0	0	0	0	0	0	1	0	1
学術研究・専門・技術サービス業		3	0	1	0	2	6	0	0	0
公務		0	0	0	1	1	2	0	0	0
その他		1	4	1	0	0	6	0	0	0
合計		19	20	23	26	18	106	13	4	17

(4) 主な就職先機関名称（令和6年度）

本科					専攻科
機械工学科	電気電子工学科	制御情報工学科	生物応用化学科	材料システム工学科	
株式会社トヨタプロダクションエンジニアリング	旭化成株式会社	エヌ・ティ・ティ・コムウェア株式会社	旭化成株式会社	株式会社クボタ	旭化成株式会社
株式会社デンソー九州	NEC フィールディング株式会社	株式会社 NTT データ	味の素株式会社	株式会社田中貴金属グループ	AGC 株式会社 化学品カンパニー
東京エレクトロン株式会社	NHK 日本放送協会	株式会社 クボタ	出光興産株式会社	京セラ株式会社	株式会社 ソリトンシステムズ
日鉄エンジニアリング株式会社	キヤノンマーケティングジャパン株式会社	株式会社 ラック	株式会社 ヤクルト 本社	原子力規制委員会	株式会社 福岡銀行
パナソニック オートモーティブシステムズ株式会社	九電テクノシステムズ株式会社	九州電力株式会社	協和発酵バイオ株式会社	東京エレクトロン株式会社	グンゼ株式会社
久光製薬株式会社	コニカミノルタジャパン株式会社	SUBARU テクノ株式会社	三洋化成工業株式会社	昭栄化学工業株式会社	DMG 森精機株式会社
富士電機株式会社	TOPPAN 株式会社	東海旅客鉄道株式会社	第一三共株式会社	日本冶金工業株式会社	TOTO 株式会社
本田技研工業株式会社	富士通株式会社	日本アイ・ビー・エムデジタルサービス株式会社	ダイキン工業株式会社	日之出水道機器株式会社	西日本電信電話株式会社
三菱重工業株式会社	マブチモーター株式会社	パナソニック株式会社	大日精化工業株式会社	富士ダイス株式会社	パナソニックコネクト株式会社
三菱電機株式会社	三菱電機ビルソリューションズ株式会社	富士通株式会社	中外製薬工業株式会社	三井金属鉱業株式会社	

研究活動

1. 産学連携

(金額単位：千円)

制度名	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
共同研究	8	5,478	7	3,941	12	7,890	11	7,999	12	8,092
受託研究	0	0	0	0	4	4,980	2	5,532	2	5,100
奨学寄附金	15	10,502	14	10,303	22	17,781	22	33,481	21	23,430

※奨学寄附金には、創基75周年・高専創立50周年記念基金は含まない。

2. 科学研究費補助金等

(1) 科学研究費補助金

(金額単位：千円)

種目	課題名	期間	所属	職	氏名	金額
基盤研究 (B)	脱炭素社会への過渡期を担うファインパブル燃料の製造・品質・輸送・ 燃焼技術の研究開発	令和5年度～令和7年度	機械工学科	教授	中武 靖仁	2,730
	MR ブレーキの力制御による安全接触可能な多リンクシステムの構築と 安全制御理論の進展	令和5年度～令和7年度	機械工学科	准教授	南山 靖博	650
	風車翼への応用を目指した連続観察に基づくスギの疲労損傷メカニズム に関する研究	令和5年度～令和7年度	機械工学科	准教授	青野 雄太	520
	大気中のラマン散乱現象を利用したレーザービーム品質の非接触モニタ リング	令和4年度～令和7年度	電気電子工学科	教授	宮崎 浩一	期間延長
	リサイクルのためのパルス放電技術を用いたウェルドボンディング接合 体の効率的分解	令和6年度～令和8年度	電気電子工学科	助教	林 秀原	1,690
	共起辞書と AI 技術を用いた日本人英語学習者のためのリーダビリティ 予測モデルの開発	令和5年度～令和7年度	制御情報工学科	准教授	中野 明	260
	劣化予測機能を有する次世代車載スマートビジョンシステムの開発	令和7年度～令和9年度	制御情報工学科	教授	松島 宏典	1,950
基盤研究 (C)	大規模データを用いて作成した量み込み型スパース辞書による分散圧縮 符号化と深層学習	令和5年度～令和7年度	制御情報工学科	教授	黒木 祥光	1,300
	強磁場による3元合金の強磁性相の合成制御及び反応機構の解明	令和7年度～令和9年度	材料システム工学科	助教	小林 領太	2,080
	ハイレントロピー型次世代耐熱耐摩耗合金の組織制御と特性評価	令和7年度～令和9年度	材料システム工学科	教授	山本 郁	1,820
	異常感知部品開発に向けた伸長パーライトにおけるデラミネーション発 生因子の解明	令和7年度～令和9年度	材料システム工学科	准教授	佐々木大輔	2,080
	シンタリング抑制と触媒機能発現の両立に向けた SiO _x 層と金属触媒の 位置選択的形成	令和6年度～令和8年度	材料システム工学科	准教授	清長 友和	1,690
	無酸素運動がヒト運動抑制機能へ与える影響について	令和7年度～令和9年度	一般科目 (文科系)	准教授	赤塚 康介	3,120
	楕円ファイバーカービ-ヤウ空間における非小型特異点の研究	令和4年度～令和7年度	一般科目 (理科系)	准教授	谷 太郎	期間延長
	ポストコロナ時代に自ら学ぶ姿勢を涵養する数学オンライン学習スタイル の構築	令和4年度～令和7年度	一般科目 (理科系)	教授	菰田智恵子	期間延長
	乗法的単位元を持たない可換環を用いた almost 数学のスキーム及びホ モトピー理論の確立	令和5年度～令和7年度	一般科目 (理科系)	准教授	加藤 裕基	1,950
	構造と含酸素官能基の最適設計による炭素アクティブサイトの析出と触 媒反応への応用	令和5年度～令和7年度	生物応用化学科	准教授	我部 篤	520
若手研究	日本出版史における近代木版口絵に関する基礎的研究	令和7年度～令和9年度	一般科目 (文科系)	准教授	常木 佳奈	1,430
挑戦的研究 (萌芽)	バイオマスと再生石灰を利用したカーボンニュートラルなグリーンアセ チレン合成	令和5年度～令和7年度	機械工学科	准教授	細野 高史	650

※金額：令和7年度受入額（直接経費＋間接経費）

※令和7年度実施課題を記載

社会貢献

1. 生涯学習等

社会貢献及び理工学の振興を目的として、令和6年度は以下の公開講座を実施しました。

開催月	講座名称	対象者	参加人数
8月	化学への招待 - 楽しい生物・化学教室 -	小・中学生	28
8月	ソーラーカーを作ろう！	中学生	13
8月	(初心者向け) マインクラフトでプログラミングを学ぼう！	小学生	19
8月	金属アクセサリを作製しよう！	中学生	27
8月	あなたも一日サイエンティスト(数学講座)	中高生	36

開催月	講座名称	対象者	参加人数
9月	エレクトロニクススクール ライントレースカーを作ろう	中学生	18
9月	高専 AI デバイスを使った人工知能入門	中学生	9
12月	3D-CAD/CAE (材料力学) 講座	社会人	7
12月	3D-CAD/CAE (熱流体) 講座	社会人	2

2. テクノネット久留米

テクノネット久留米は、本校による地域連携活動の強化を図る目的で平成24年10月に発足し、福岡県及び佐賀県における産業のさらなる発展や地域の人材の育成等を目指しています。

令和6年度は、本校と地域産業界等との連携・交流を一層深め、地域産業の発展に寄与するとともに、本校の教育研究の振興を図ることを目的に、本校とテクノネット久留米会員との共同研究6件のほか、次の事業を実施しました。

年月日	事業名
令和 6年 4月	テクノネット久留米企業説明会
令和 6年 6月	テクノネット久留米紹介ブック発行
令和 6年 6月	テクノネット久留米図書寄贈事業
令和 6年 7月	テクノネット久留米講演会

年月日	事業名
令和 6年 8月	テクノネット久留米ラボツアー
令和 6年10月	テクノネット久留米総会
令和 7年 1月	テクノネット久留米企業説明会
令和 7年 1月	久留米高専研究・開発シーズの育成奨励事業

課外活動の主な実績

主な課外活動実績（令和6年度）

大会・コンテスト等名称	競技種目等詳細	成績
第61回九州沖縄地区高専体育大会（陸上競技）	男子三段跳	優勝
	男子円盤投	優勝
	女子やり投げ	第3位
	男子走高跳	第3位
第61回九州沖縄地区高専体育大会（バドミントン）	男子団体	第3位
	男子800m自由形	第3位
第61回九州沖縄地区高専体育大会（水泳）	女子50m自由形	第2位
	女子100m背泳ぎ	第3位
	女子100mバタフライ	第3位
	女子4×50mフリーリレー	第3位
	女子4×50mメドレーリレー	第2位
	男子	第3位
第61回九州沖縄地区高専体育大会（バスケットボール）	女子	第3位
第61回九州沖縄地区高専体育大会（硬式野球）		優勝
第61回九州沖縄地区高専体育大会（剣道）	男子団体	優勝
第61回九州沖縄地区高専体育大会（バレーボール）	男子	第3位
	女子	準優勝
第61回九州沖縄地区高専体育大会（硬式テニス）	男子団体	第3位
	女子シングルス	第3位
第61回九州沖縄地区高専体育大会（ラグビー）		優勝
第59回全国高専体育大会	硬式野球	第3位
第59回全国高専体育大会	ラグビー	第3位
第10回九州沖縄地区高専弓道大会		第2位
Ikenobo 花の甲子園 2024 九州北大会		優勝
第57回(令和6年度)九州沖縄地区国立高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト	暗唱部門	第2位
	プレゼン部門	第3位
日本心理学会第88回大会「学部生・高校生プレゼンバトル」		総合優勝
高専ワイヤレスコンテスト 2024 (WiCON2024)		最優秀賞

国際交流

1. 学生交流

(1) 留学生在籍状況

各年度4月1日現在（単位：名）

地域	国名	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
アジア	インドネシア	1	2	1	2	2
	マレーシア	2	2	4	5	5
	モンゴル	4	2	2	1	1
	カンボジア	1	1	1	1	3
	タイ	0	0	0	1	2
合計		8	7	8	10	13

(2) 学生海外派遣実績

（単位：名）

地域	国名	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
アジア	ベトナム、マレーシア、中国、タイ、韓国、シンガポール、台湾	0	8	53	56
北米	カナダ、アメリカ	0	0	1	2
欧州	アイルランド	0	0	0	1
合計		0	8	54	59

2. 研究者交流

(1) 研究者受入実績（平成27～令和6年度）

国名	派遣元機関名称	受入人数（名）	受入学科	受入期間
タイ王国	チュラロンコン大学	1	材料工学科	H27.8.1～H27. 12.31
タイ王国	チュラロンコン大学	1	材料工学科	H28.9.4～H29. 9.3
シンガポール	ナンヤン・ポリテクニク	1	制御情報工学科	R01.9.9～R01.9.20
タイ王国	スラナリー工科大学	1	材料システム工学科	R05.4.1～R06.3.31

(2) 研究者渡航実績

（単位：名）

地域	主な国	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
アジア	中国、韓国、マレーシア、タイ王国、シンガポール、他5カ国	0	0	4	9	21
オセアニア	オーストラリア	0	0	0	1	2
北米	アメリカ、カナダ	0	0	0	2	1
欧州	イギリス、スペイン、フランス、ドイツ、他7カ国	0	0	0	0	3
合 計		0	0	4	12	27

大学等間交流協定

1. 海外

海外大学等との学術協定等締結状況

締結先機関名称	国	締結年月日	終了年月日
合肥学院大学	中国	平成 7年10月 5日	無期限
啓明大学校	韓国	平成 8年 1月22日	無期限
レッドリバー・コミュニティーカレッジ	カナダ	平成 9年 2月 3日	令和 9年 2月 2日
キングモンクット工科大学 情報学部	タイ	平成29年 3月30日	令和 9年 3月29日
ナンヤン・ポリテクニク	シンガポール	令和 3年12月20日	令和11年12月19日
トゥールーズ IUT	フランス	令和 4年 9月 7日	令和 9年 9月 6日
国立台北科技大学	台湾	令和 7年 4月15日	令和12年 4月14日

2. 国内

(1) 国内大学等との学術協定等締結状況

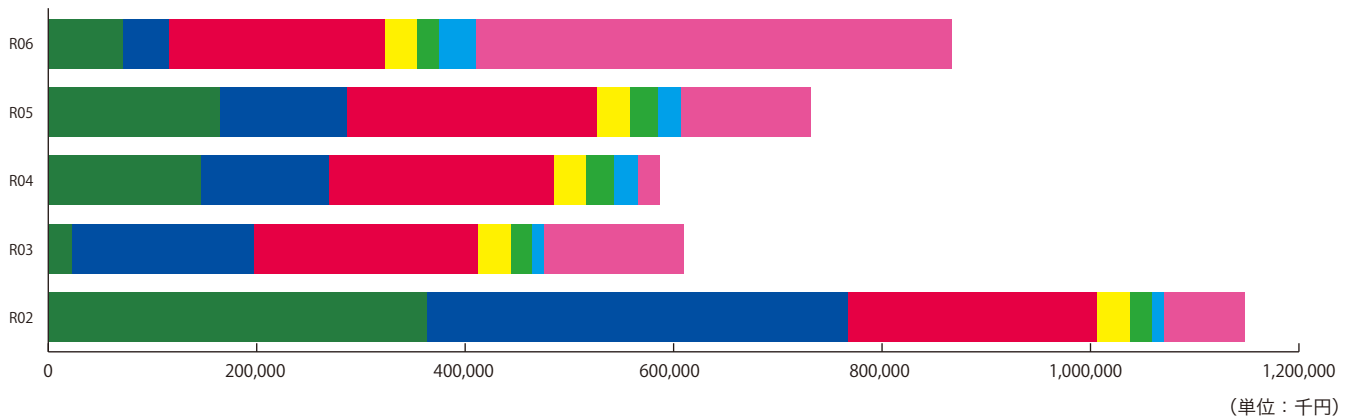
締結先機関等名称	協定内容	締結年月日	終了年月日
久留米大学、久留米工業大学、 聖マリア学院大学	単位互換	平成16年 6月28日	令和 8年 3月31日
有明工業高等専門学校、北九州工業高等専門学校、 佐世保工業高等専門学校、熊本高等専門学校、 大分工業高等専門学校、都城工業高等専門学校、 鹿児島工業高等専門学校、沖縄工業高等専門学校	単位互換	平成21年10月 1日	令和 7年 9月30日
久留米工業大学、久留米大学、 聖マリア学院大学	高等教育コンソーシアム久留米の設置	平成21年12月17日	無期限
北陸先端科学技術大学院大学	推薦入学	平成24年 3月27日	令和 8年 3月26日
久留米工業大学	教育・研究・地域社会活動分野での連携協力	平成29年 6月 1日	期限なし
九州大学大学院総合理工学府、 大学院総合理工学研究院、応用力学研究所、 先端物質化学研究所	インターンシップ・共同研究	平成30年 1月11日	令和10年 1月10日
九州大学工学系部局	インターンシップ・共同研究・連携教育の推進	平成30年12月 1日	令和 8年11月30日
久留米大学	教育・研究・地域社会活動分野での連携協力	令和元年 8月 1日	無期限
早稲田大学大学院情報生産システム研究科	推薦入学	令和 2年12月10日	令和 8年 3月31日
熊本大学工学部	共同研究・連携教育	令和 5年 9月12日	令和10年 9月11日
九州工業大学大学院生命体工学研究科	推薦入学	令和 6年 2月 8日	令和12年 2月 7日

(2) 地方公共団体等との協定締結状況

締結先機関等名称	協定内容	締結年月日	終了年月日
久留米市	事業協定	平成21年 3月31日	期限なし
日本歯車工業会	連携・協力	平成28年 5月20日	令和 8年 5月20日(1年毎更新)
日本ゴム協会九州支部	連携・協力	平成28年 7月 8日	令和 8年 7月 8日(1年毎更新)
久留米商工会議所	連携・協力	平成28年12月21日	令和 7年12月21日(1年毎更新)
鳥栖市	連携・協力	令和 4年 8月26日	令和 8年 8月27日

財務状況

1. 収入



科目\年度	R02	R03	R04	R05	R06	説明
運営費交付金	362,645	21,276	145,654	163,581	70,590	業務運営に必要な資金として国から交付されたもの
施設整備費補助金	404,828	175,615	123,310	122,433	44,880	本校の基盤施設整備のために国から交付されたもの
授業料収入	238,780	215,176	216,028	240,019	207,089	学生から納付された授業料
その他自己収入	31,836	31,621	31,117	32,317	31,053	本校が受け入れた検定料、入学金、寄宿料等
産学連携等収入	21,223	20,073	26,648	26,631	20,582	産学官連携事業を実施するために受け入れた現金など
寄付金収入	11,403	11,819	22,881	22,045	36,092	本校の業務を財政的に支援するために寄附された現金等
その他補助金	78,383	133,955	21,002	124,602	457,208	特定の事業を実施するために国等から交付されたもの
合計	1,149,098	609,535	586,640	731,628	867,494	

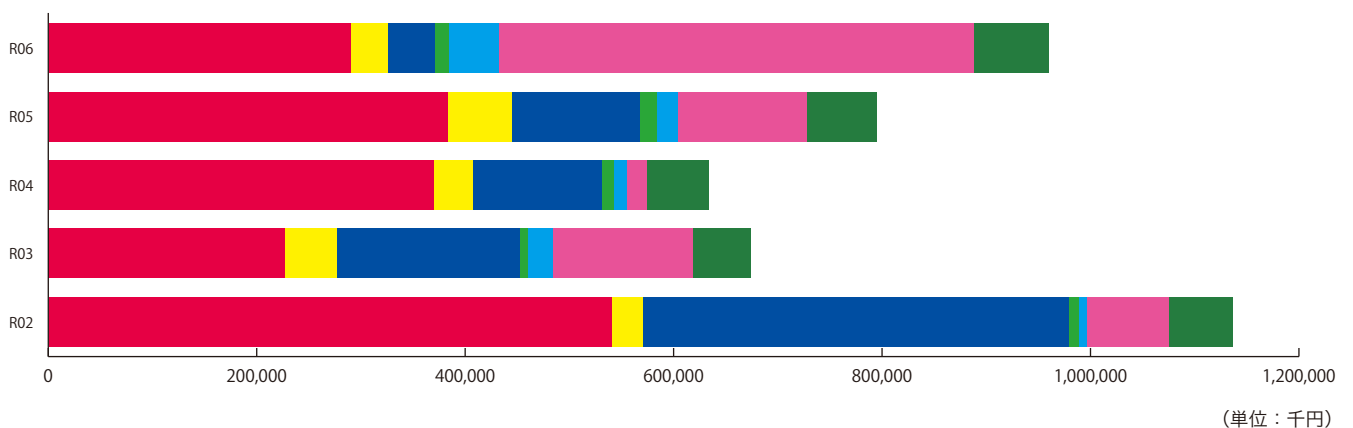
※1 令和2年度の施設整備費補助金は、ものづくり教育センター改修工事費等、同年度の運営費交付金は、前述工事に伴う移転費等。

※2 令和3年度の施設整備費補助金は、ライフライン再生（給排水設備）工事費。

※3 令和4年度の施設整備費補助金は、筑水寮（寄宿舎2号館）改修工事費。

※4 常勤教職員の人件費については、（独）国立高等専門学校機構本部の収入予算に計上しているため上記項目の運営費交付金には含まれていない。

2. 支出



科目\年度	R02	R03	R04	R05	R06	説明
教育研究費	540,280	226,816	369,226	382,742	289,666	教育及び研究に要した金額
一般管理費	30,270	49,587	38,258	61,909	36,454	管理部門に要した金額
施設整備費	409,032	175,615	123,310	122,433	44,880	施設整備費補助金の対象事業に要した金額
産学連携等研究経費	9,552	8,399	12,339	17,191	13,392	産学官連携事業に要した金額
寄付金事業費	8,314	23,652	12,018	19,540	47,126	寄附金で執行した金額
その他補助金	78,281	133,847	19,433	124,392	457,208	その他補助金で執行した金額
人件費	61,083	56,264	58,989	66,493	71,473	非常勤教職員に係る人件費
合計	1,136,812	674,180	633,573	794,700	960,199	

※1 令和2年度の教育研究費は、ものづくり教育センター改修工事に伴う移転費を含む。

※2 令和4年度の教育研究費は、基盤的設備の整備費を含む。

※3 常勤教職員の人件費については、（独）国立高等専門学校機構本部の支出予算に計上しているため上記項目の人件費には含まれていない。

施設状況

1. 保有不動産

(1) 土地

総面積	校舎・学寮等敷地				職員宿舎
	校舎等	屋外運動場	学生寮	計	
101,592㎡	69,157㎡	25,649㎡	4,800㎡	99,606㎡	1,986㎡

(2) 建物

区分	名称	構造	延面積 (㎡)	区分	名称	構造	延面積 (㎡)
校舎等施設	機械・材料システム工学科棟	R4	2,799	校舎等施設	物品庫	R1	32
	D1・D2 講義室	R1	180		燃料庫	R1	20
	D3・D4 講義室	R1	370		変電室	R1	79
	ものづくり教育センター	R2	1,939		事務部倉庫	R1	54
	熱・材力実験棟	R2	601		記念館	R1	252
	流体実験室	R2	264	校舎等施設 小計			20,587
	材料実習棟	R2	405	図書館・体育等施設	図書館総合情報センター	R2	1,702
	電気電子・制御情報工学科棟	R4	2,720		第一体育館	S1	1,121
	電気室	R1	38		第二体育館	RS1	880
	制御情報工学科棟	R3	793		武道場	R2	450
	専門教室棟	R3	663		練心館（合宿研修所）	R2	223
	生物応用化学科棟	R4	1,605		学生部室	S1	612
	生物応用化学北別館	R4	521		弓道場	W1	238
	一般教室棟	R3	1,437		体育器具庫	S1	180
	一般文科・理科棟	R3	1,559		ウェーブホール	S1	519
	一般共通棟	R2	419		プール棟	R1	209
	専攻科棟	R3	1,202		新部室	S1	193
	産学民連携リサーチセンター	R1	438	図書館・体育施設等 小計			6,327
	生物・化学実験棟	R1	300	学生寮施設	学生寄宿舍（筑水寮）	R4	3,002
	産学民連携テクノセンター棟	R2	413		学生寄宿舍2号館（筑水寮）	R4	781
	管理棟	R2	1,156		学生寄宿舍（つつじ寮）	R3	578
	守衛室	R1	20	学生寮施設 小計			4,361
	車庫	R1	122	職員宿舎施設	職員宿舎（7戸）	W1	581
	中央ボイラー室	R1	50	総 計			31,856
	実験室1	S1	29				
	実験室2	S1	29				
	実験室3	S1	29				
	実験室4	S1	29				
	実験室5	S1	20				

2. 各種施設

(1) ウェーブホール

「学生が怒涛のごとく攻める様子」をイメージして名付けられたこの施設は、学生・教職員の憩いの場として、カフェテリアレストラン、売店、自販機コーナー、ラウンジを備えており、文化部の活動紹介や講演会等の場としても活用されています。



食堂



売店



外観

(2) 記念館

旧制の久留米高等工業学校の設立から数えて40周年を迎えたのを記念して、本校同窓会久留米工業会により建設され、本校に寄贈された施設で、会議室、展示室、和室を備えています。

展示室には本校の歴史的資料が展示されており、和室は茶道部や華道部等の活動場所としても活用されています。



和室



展示



外観

3. 配置図

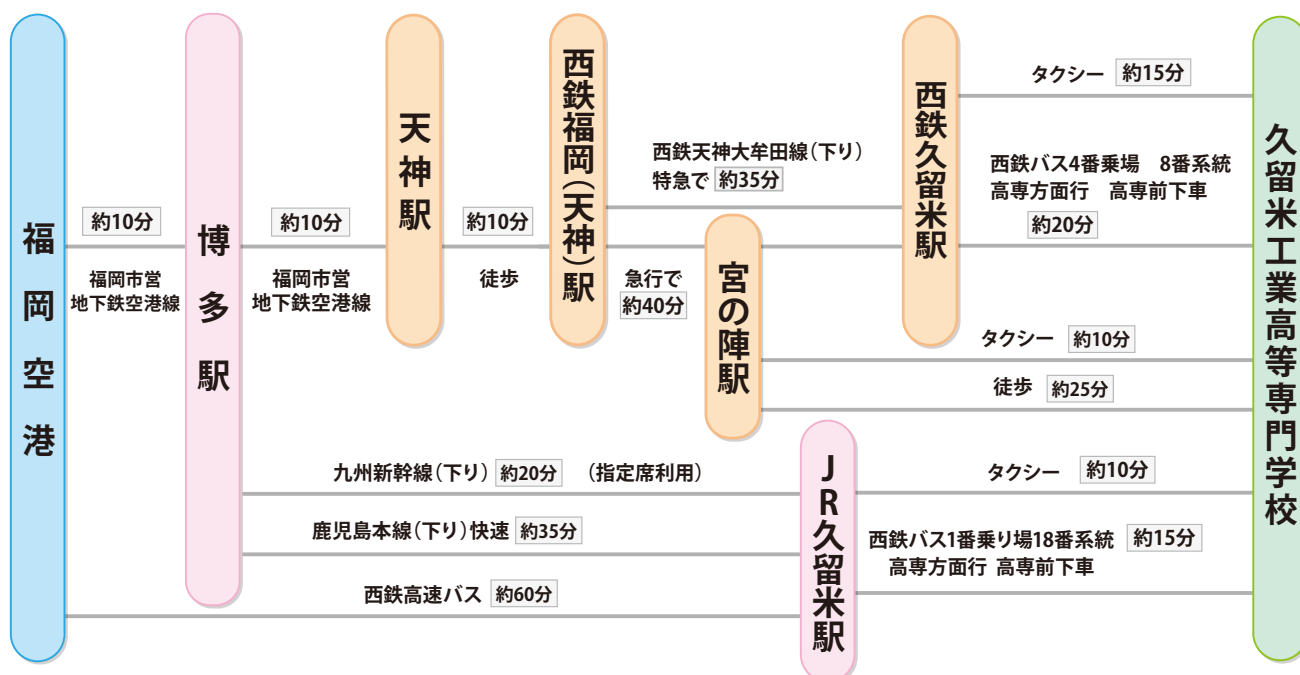
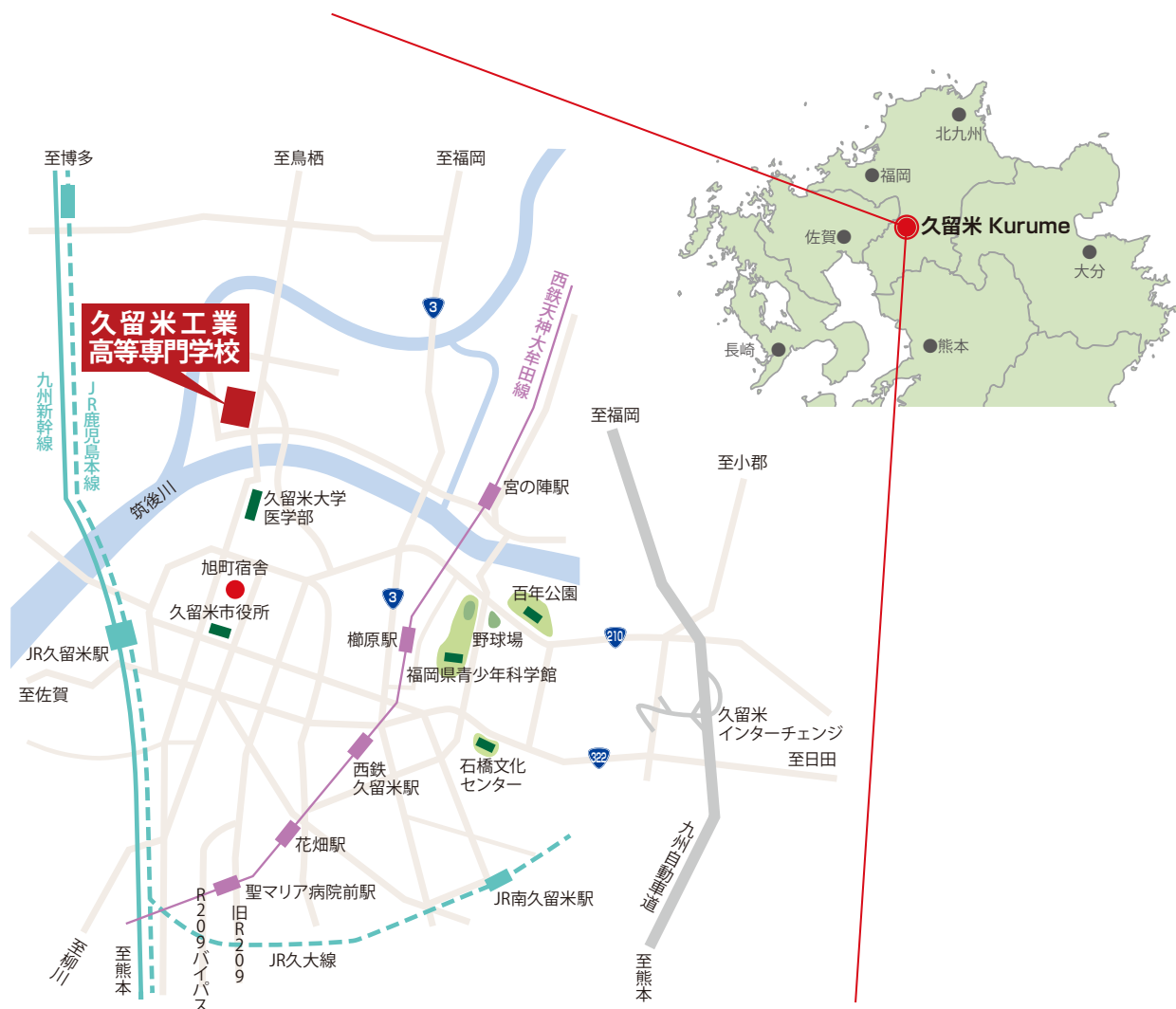
キャンパスマップ Campus Map



管理・支援	総務課 (受付)	S03	管理棟
	学生相談室・保健室	S03	管理棟
	学生課	S02	一般共通棟
	図書館・総合情報センター	S07	図書館・総合情報センター
	産学連携テクノセンター	S05	産学連携テクノセンター
	産学連携リサーチセンター	E01	産学連携リサーチセンター
	同窓会事務局・会議室	E04	記念館
	後援会事務局	S06	専攻科棟
	一般文科・理科	S04	一般文科・理科棟
		S02	一般共通棟
教員室	機械工学科	E07	機械材料システム工学科棟
	電気電子工学科	E03	電気電子・制御情報工学科棟
	制御情報工学科	E03	電気電子・制御情報工学科棟
	生物応用化学科	M03	生物応用化学科棟
	材料システム工学科	E07	機械材料システム工学科棟
	一般文科・理科	S04	一般文科・理科棟
		E07	機械材料システム工学科棟
	機械工学科	N05,N08	ものづくり教育センター
		N04	熱・材力実験棟
		N07	流体実験棟
実験室	電気電子工学科	E03	電気電子・制御情報工学科棟
		E02	電子工作室
	制御情報工学科	N05	ものづくり教育センター
		M01	制御情報工学科棟
		E03	電気電子・制御情報工学科棟
		N05	ものづくり教育センター
		M03	生物応用化学科棟
	生物応用化学科	M02	生物・化学実験棟
		E01	産学連携リサーチセンター
		N05	ものづくり教育センター
	材料システム工学科	E01	産学連携リサーチセンター
		E07	機械材料システム工学科棟
		E08	高圧機器分析室
		M05	材料実習棟

教室	1・2年生	S01	一般教室棟
		S02	一般共通棟
	3年生	E03	電気電子・制御情報工学科棟
		E07	機械材料システム工学科棟
		E05	D3,4教室棟
		E06	D1,2教室棟
	4・5年生	M03	生物応用化学科棟
		M04	専門教室棟
	専攻科	S06	専攻科棟
	D4教室	E05	D3,4教室棟
福利厚生	美術室	M04	専門教室棟
	学生寮 (筑水寮)	N01	筑水寮
	学生寮 (つつじ寮)	N02	つつじ寮
	練心館	N03	練心館
	食堂・売店	N06	ウェーブホール
	テニスコート	W01	
	運動場	W02	
	野球場	W03	
	弓道場	W04	
	体育館	W05	
	第二体育館	W06	
	第一体育館	W07	
	武道場	W08	
	学生部室	W09	
	プール	S08	
	駐車場 (学生用)	P01,P02	
	駐車場 (教職員用)	P03,P04	
	駐車場 (外菜・教職員用)	P05	
	バイク駐輪場	P06,P07	
	駐輪場	P08,P09	

アクセス



令和7年度 学 校 要 覧

令和7年7月

独立行政法人国立高等専門学校機構

久留米工業高等専門学校 広報委員会

〒830-8555 福岡県久留米市小森野一丁目1番1号

TEL 0942-35-9300（代表） FAX 0942-35-9307

<https://www.kurume-nct.ac.jp/>

